

名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構年報

第 2 号
2021年3月

第 2 号
2021年3月

目 次

年報第2号発刊にあたり 地域連携推進研究機構長 岸本 満	1
------------------------------	---

I. 地域連携推進研究機構

1. 機構の発足からの歩み	2
2. 運営委員会	3
3. ワーキンググループ	4
4. 大学公開講座	4
5. 日進市大学連携講座	4
6. その他	
(1) 地域連携活動のデータベース構築	5
(2) 後援等名義の使用許可に関する要項の制定	5

II. サービスラーニング(SL)センター

1. 活動概要	6
2. センターの目的	7
3. 学生の SL 登録・参加概要	
(1) SL 登録状況	7
(2) SL 参加状況	9
4. ボランティア要請及び派遣件数	10
5. ボランティア派遣実績	12
6. SL 参加学生の体験報告(抜粋)	14
7. 復興支援活動	16
8. ぼうさいこくたい 2020	17

III. 2020 年度の地域連携活動データ

1. 活動件数	18
2. 活動一覧	19

IV. 資料

1. 名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程	32
2. 協定・連携一覧	34
3. 2020 年度地域連携推進研究機構運営委員会委員名簿	35
4. SL センター報告会用パネル、新聞等の掲載記事、活動記録写真	36

年報 2 号発刊にあたり

2020 年以降、人が移動したり集まることが社会的・心理的に制約されています。本学も遠隔授業を導入するなど、様々な対策・対応を講じるとともに、学生・教職員が適切に感染予防を行うことによって学内での感染を抑え込んでまいりました。

地域連携推進研究機構(以下本機構)が支援する地域連携活動、そして学生ボランティア活動においても休止、延期、変更される案件が多数発生し、活動及び実施件数は低調でしたが前期「大学公開講座」を ZOOM 併用で開催(12 月)、また 2021 年 2 月には「日進市大学連携講座」を ZOOM ライブ配信方式で開講しました。SLC(サービスマーケティングセンター)においては 9 月と 12 月に「防災人材育成プログラム」を開講、そして「ぼうさいこくたい 2020」に 5 名の学生が参加、オンラインで活動報告を行いました。

地域連携活動は人が集まり交流、協働するというスタイルが定番でした。しかし 2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から Web を活用した活動が広がりました。本機構においても活動を継続するため様々な工夫を重ね、知恵を絞り、IT を活用するなど新しいノウハウが蓄積されました。本学における 2020 年度の地域連携活動件数は昨年度より減少しましたが、実施された活動は「コロナに負けない」熱意と努力が発揮されたと思います。

2021 年度は大学公開講座を 2 回(7 月・12 月)開催、日進市大学連携講座を 16 講座開講(10 月～2 月)、日進市連携講座「子ども大学につしん」への講師派遣が決定しています。また、日本赤十字社愛知県支部や岐阜県東白川村との共同プロジェクトを開始する予定です。SLC では昨年度に引き続き防災人材育成プログラムを開講します。そして福島県南相馬市との連携事業「みなみそうま SL」企画も動き出しています。

本機構は健康・栄養研究所、産官学協同研究センター、子どもケアセンター、SL センターそして各研究科、各学部、各学科、各研究室が行う地域連携、社会貢献活動の情報を収集し、それらを「つなぐ」、「むすぶ」、「ひろげる」役割を担っています。教職員や学生の活動を支援し、活躍を紹介し、地域連携活動や SL 活動に参画する意欲を高め、機会を提供して参ります。

引き続き、地域の自治体、企業、団体の皆様と、連携、研究、ひとづくり、ものづくり等を協働し、地域課題に取り組んでまいりたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021 年 7 月 21 日

地域連携推進研究機構長
サービスマーケティングセンター長
岸 本 満

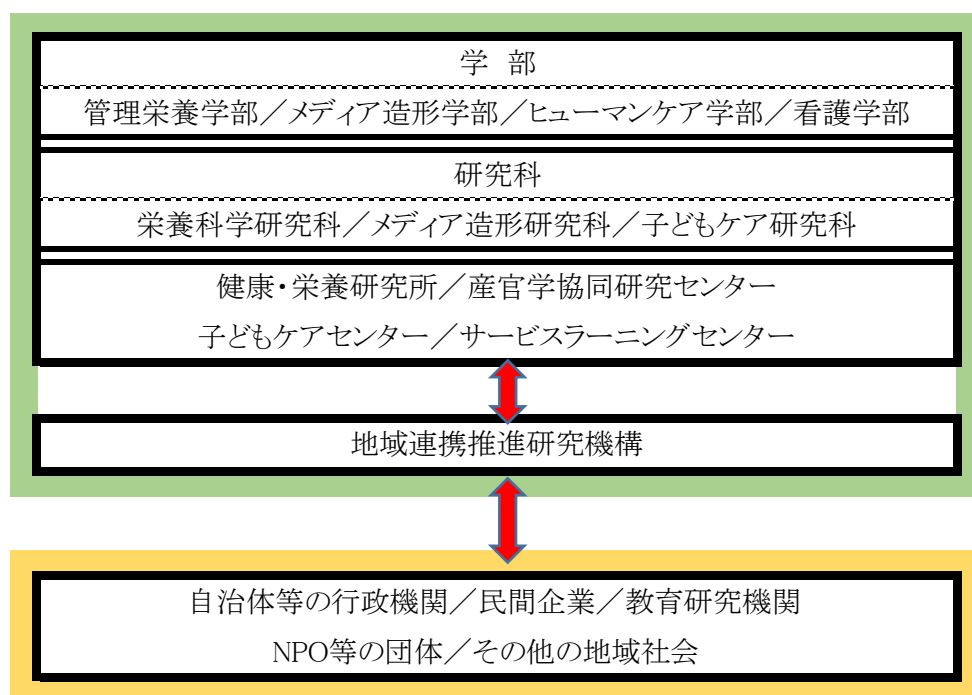
I．地域連携推進研究機構

1. 機構の発足からの歩み

地域連携推進研究機構は、本学の地域連携推進の基本方針等を検討し、施策を推進するための全学組織として、2019 年 4 月に設置された。この機構の設置は、本学中期計画 (NUAS Next) の三つの将来ビジョンのうちの一つである地域創生、生涯学習などの多岐にわたる課題解決に資する中核的存在知の拠点として、大学の機能強化を図ることを目的としている。そして、組織として機構を具体化するきっかけとなったのは、文部科学省の 2018 年度私立大学研究ブランディング事業への申請である。このブランディング事業の申請は、2017 年 4 月に地域連携の学長補佐となった管理栄養学部の岸本満教授の下で、3 学部にまたがるワーキンググループが本学の地域連携活動を調査分類し見える化したことが基盤となった。このワーキングの調査結果によれば、大学にはその当時 363 件の活動が認められ、これらの実績を用いて発展的な地域連携を目指した研究活動を実現することが、このブランディング事業申請の目的だった。

ブランディング事業には残念ながら採択されなかったが、その事業計画の方向性を保ち、本学における地域連携活動をさらに推進するため、事業申請時に制定した「名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程」に基づいて、2019 年 4 月に岸本副学長を機構長に併任し、新たに課長職を 1 名採用するとともに、学生の社会貢献を支援するサービスラーニングセンターを包括して、地域連携に関わる全学組織として本機構がスタートすることになった。

全学組織としての本機構の役割は、自治体、産業界、教育研究機関、NPO 等の団体、その他地域社会と大学・教職員・学生を「つなぐ・むすぶ・ひろげる」ことであり、次の図に示すような大学の地域連携活動の総合窓口となるものである。その業務は、1) 地域連携推進に係る方針の策定に関すること、2) 地域連携研究の実施、社会実装の推進及びその支援に関すること、3) 学生ボランティア活動の支援に関すること、4) 地域連携、地域貢献活動及び関連する教育・研究成果の広報に関すること、5) 公開講座の実施・運営に関すること、6) その他全学的な地域連携推進に関することである。



2. 運営委員会

地域連携推進研究機構の重要事項を審議するための運営委員会は、隔月で開催しており、2020 年度における主な議題等は次のとおりである。(委員名簿は巻末に掲載)

第 1 回

1. 地域連携推進研究機構年報について

第 2 回

1. 学外からの施設利用申込みについて

第 3 回

1. 2020 年度地域連携推進研究機構年報第 2 号の編集方針について

第 4 回

1. 2020 年度地域連携推進研究機構年報第 2 号発刊の編集委員会設置について

第 5 回

1. 2020 年度地域連携推進研究機構年報第 2 号発刊について
2. 2021 年度 SL センター「ボランティアスキルアッププログラム」について
3. 2021 年度日進市大学連携講座の開催計画について
4. 2021 年度日進市連携講座「子ども大学にっしん」開催計画について
5. 大学公開講座委員会について

3. ワーキンググループ

地域連携推進研究機構規程第 13 条に定める運営委員会の「部会」であるワーキンググループは、4 学部を繋ぎ、各学部の特色・特性を地域連携活動に反映させることを組織の目標とし、機構と運営委員会から付託された課題について調査、検討し、問題解決策の提案等を行うとともにそれらに基づく計画の企画・推進に携わっている。

2020 年度の、ワーキンググループの活動は実施されなかった。

4. 大学公開講座

2020 年 12 月 12 日(土)、ヒューマンケア学部子どもケア学科の黒田美保客員教授による公開講座を開催した。講座テーマは、「子育ての魔法を学ぼう！」で、新型コロナウイルス禍の中、本学を会場とした対面講座に加え、ZOOM ウェビナーを利用したオンライン配信も行った。

対面受講者 27 名、ZOOM 受講者 25 名、計 52 名が参加した。受講者より、「ほめる⇒認める行為という認識が出来て良かった。」、「子ども相手の仕事をしているので、職場の皆で聞きたかった。」、「今日の内容は、講座として何度あっても良いと思う。」、「子育てに関する講座はたくさん開いてほしい。」等の感想や要望があった。



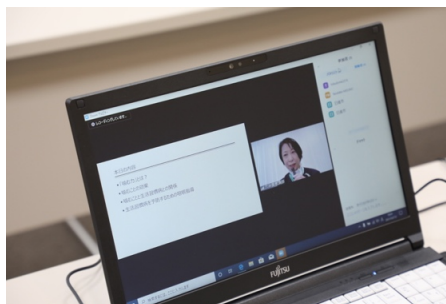
5. 日進市大学連携講座

2021 年 2 月 13 日(土)、看護学部看護学科の穴井美恵教授による公開講座が日進市大学連携講座として開講された。講座テーマは、「噛む力で健康長寿を目指しましょう！—生活習慣病とその予防—」で、日進キャンパスから ZOOM ウェビナーで web 配信した。

日進市教育委員会生涯学習課が、日進市生涯学習情報誌、日進市公式ホームページ等

で参加者を募り、ZOOM ライブ配信に加え日進市民会館において大画面スクリーンに投影してパブリックビューイング形式でも配信された。

日進市民会館での受講者が7名、自宅での受講者が1名、計8名が参加・受講した。受講者より、「会場への往復の時間的ロスもなく、集中して拝聴することができた。」、「しっかりと聞いてメモをしないといけないと思うため書く力がつく。」、「噛む回数 30 回は知っていたが、細かい説明があったてよく分かった。」、「健康・栄養をテーマにした講座を希望する。」等の感想や要望があった。



6. その他

(1) 地域連携のデータベース構築:地域連携カード

2019 年度より、各部局で行われている地域連携活動に係る情報を集約し、それらのデータをアーカイブ化するため、連携活動の内容を分類し、データ化するため「地域連携カード」を作成し、各部局から活動情報を収集している。

(2) 後援等名義の使用許可に関する要項の制定

学外から本学に対して後援等名義使用の依頼があった場合の許可の基準及びその手続き等を定めた要項を 2019 年度に制定し 2020 年度に運用した。

Ⅱ．サービスラーニングセンター

1. 活動概要(2020 年 3 月～2021 年 5 月)

2020 年

3 月 7 日 遊びの交流会 名古屋学芸大学 3 名

4 月 愛知県に緊急事態宣言が發布される(4 月 16 日から 5 月 25 日)
新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生自宅待機

5～7 月 学生自宅学習(遠隔授業)

8 月 愛知県に緊急事態宣言が發布される(8 月 6 日から 8 月 24 日)

9 月 学生対面・遠隔授業

9 月 19 日 防災人材育成プログラム 災害エスノグラフィー
名古屋学芸大学 141 教室
学生 5 名 職員 1 名 一般 8 名
合計 14 名

10 月 3 日 ぼうさいこくたい 2020
名古屋学芸大学 124 教室 学生 5 名

11 月 28 日 防災人材育成プログラム DIG
名古屋学芸大学 621 教室
学生 7 名 職員 1 名 一般 11 名
合計 19 名

12 月 学生対面・遠隔授業

1 月 愛知県に緊急事態宣言が發布される(1 月 14 日から 3 月 7 日)

2 月 27 日 おいでよ!こどものまち 4 名

3 月 7 日 グランドソフトボール練習会の補助 2 名

14 日 マラソンフェスティバル 19 名

2021 年

4 月 SL センターHP にスキルアップ講座等を新設
ボランティアの意欲を向上させる機会を提供

5 月 愛知県に緊急事態宣言が發布される(5 月 12 日から 6 月 20 日)

30 日 やろまいか! 愛・地クリーン作戦 ボランティア 11 名

31 日～6 月 3 日 みなみそうま SL 説明会実施 21 名

2. センターの目的

学生が社会の要請に対応した社会貢献活動(ボランティア活動)に主体的に参画し、体験的学習を通じて建学の精神である「人間教育」に貢献する。

※ボランティア活動を通じて、学びを得るという趣旨で、ボランティアセンターではなく、サービ斯拉ーニングセンターと名付けられました。

3. 学生の SL 登録・参加概要

(1) SL 登録状況

2020年度のSL(ボランティア)登録状況を表1に示す。在籍者数(3,036人)に対し、登録学生は911人(30%)だった。

表1 2020年度 SL 登録状況

2021年3月31日現在

学部	学科	学年	在籍者数 (人)	登録者数 (人)	在籍者に 対する 登録者 の割合 (%)
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	171	112	65
		3年生	169	115	68
		2年生	177	100	56
		1年生	174	17	10
ヒューマンケア学部	子どもケア学科	4年生	232	113	49
		3年生	224	135	60
		2年生	234	38	16
		1年生	235	5	2
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	126	121	96
		3年生	106	19	18
		2年生	121	5	4
		1年生	132	0	0
	デザイン学科	4年生	81	26	32
		3年生	81	2	2
		2年生	87	2	2
		1年生	90	0	0
	ファッション造形学科	4年生	76	79	104
		3年生	64	14	22
		2年生	69	0	0
		1年生	70	0	0
看護学部	看護学科	3年生	104	7	7
		2年生	106	0	0
		1年生	107	1	1
合計			3036	911	30

学科別登録者割合を図1に示す。

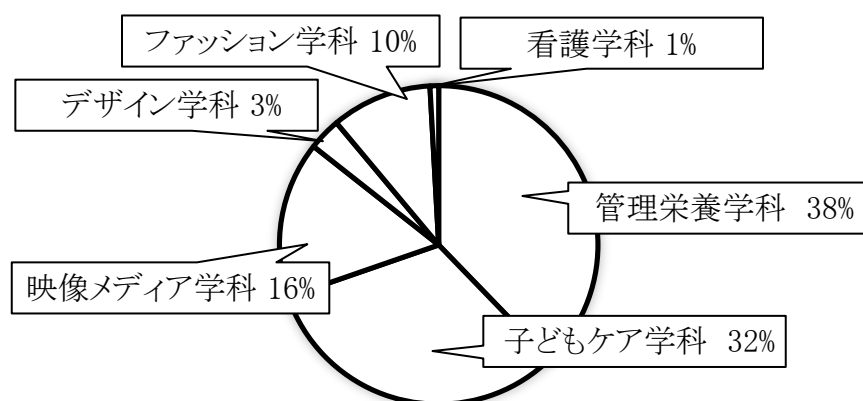


図1 学科別 SL 登録者割合

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、緊急事態宣言が發布されたことから、年度当初に休校の措置が取られ、その後オンライン学習を導入、後期は一部対面となった。学生の登校機会の減少に加えて、ボランティア要請も激減した。

SL 新規登録者数の推移(2018～2020 年度)を表 2 に示す。

表2 年度別 SL 新規登録者数

2021年3月31日現在 単位:人					
学部	学科	学年	2018年度	2019年度	2020年度
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	1	0	0
		3年生	17	1	0
		2年生	13	15	7
		1年生	96	93	17
ヒューマンケア学部	子どもケア学科	4年生	4	0	0
		3年生	1	2	2
		2年生	18	0	0
		1年生	134	38	5
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	19	5	0
	デザイン学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	1	0
		2年生	0	0	0
		1年生	2	2	0
	ファッション造形学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
		2年生	0	3	0
		1年生	11	0	0
看護学部	看護学科	3年生	0	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	7	0	1
合計			323	160	32

(2) SL 参加状況

2018～2020 年度における SL 参加者数を表3に示す。

2020 年度においては、新型コロナウイルス感染拡大を受けて参加者数は減少した。

表3 年度別活動状況

2021年3月31日現在 単位: 人(延べ人数)

学部	学科	学年	2018年度	2019年度	2020年度
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	1	0	0
		3年生	23	6	5
		2年生	55	21	20
		1年生	49	81	3
ヒューマンケア学部	ヒューマンケア学科	4年生	0	1	0
		3年生	22	2	5
		2年生	22	6	0
		1年生	36	11	4
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	4	3	0
	デザイン学科	4年生	0	0	0
		3年生	4	1	0
		2年生	0	0	0
		1年生	1	0	0
	ファッション学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
		2年生	0	2	0
		1年生	2	0	0
看護学部	看護学科	3年生	0	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	0	0	1
合計			219	134	38

4. ボランティア要請及び派遣件数

2018～2020 年度のボランティア要請件数と派遣件数を表 4 に示す。
新型コロナウイルス感染拡大を受けて要請数・派遣数とも減少した。

表4 年度別ボランティア要請及び派遣件数

		2021年3月31日現在 単位:人(延べ人数)					
要請元及び派遣先		2018年度(4.1～3.31)		2019年度(4.1～3.31)		2020年度(4.1～3.31)	
		要請	派遣	要請	派遣	要請	派遣
1 郡	市町	42	19	36	18	5	2
	官公庁	2	2	1	1	1	0
2 郡	協定機関	0	0	0	0	0	0
	公益法人	16	6	17	1	7	0
	社会福祉法人	3	2	3	3	0	0
3 郡	NPO	5	4	5	2	2	1
	NGO	0	0	0	0	0	0
4 郡	企業	0	0	0	0	0	0
	大学	9	8	3	1	3	2
	一般	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0
合計		78	41	65	26	18	4

1～4 群の群別割合を図2に示す。
(1 群:市町・官公庁、2群:協定機関・公益法人・社会福祉法人、3 群:NPO・NGO、
4 群:企業・大学・一般、その他)

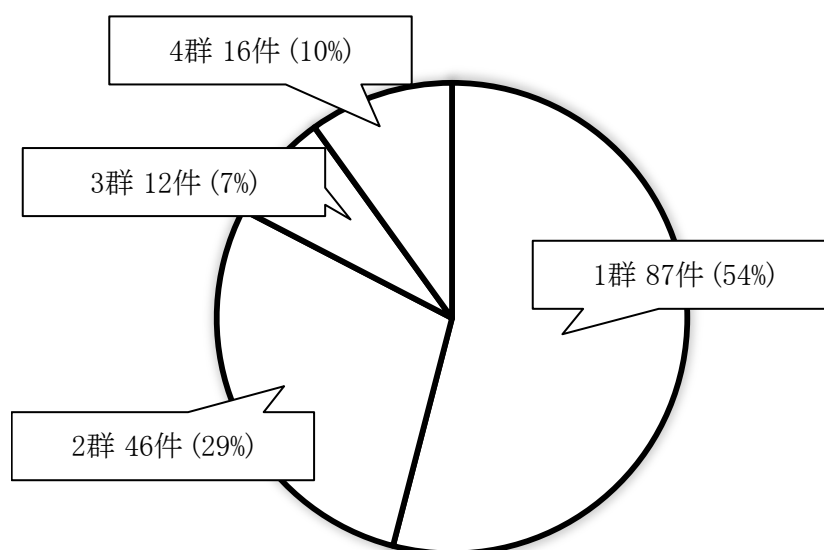


図2 群別ボランティア要請件数の割合

要請件数に対する派遣件数割合は 22%だった。学生は学部学科の学びに沿ったボランティアを希望する傾向がみられた。

図3に 2018～2020 年度のボランティア要請件数に対する派遣件数の割合を示す。

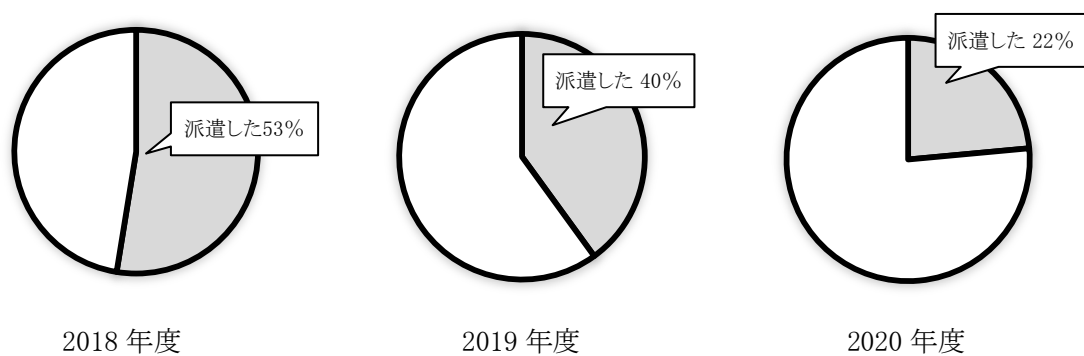


図 3 年度別ボランティア要請件数に対する学生派遣件数の割合

5. ボランティア派遣実績

2018～2020 年度ボランティア派遣の種類とその概要を表 5-1～5-3 に示す。

表 5-1 2018 年度ボランティア派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する (5件、21人)	ユニス・ケネディ・シュライバー・デー ユニファイドスポーツ®
	コロニー祭
	名東区ふれあい交流会
	ローゼルサロン ポッチャ体験教室
	はなのきまつり2018
イベント・祭りの運営 (7件、33人)	あいち国際女性映画祭2018 映画祭
	おんぼく
	竹の山夏まつり 2018 ステージ担当
	つばき夏祭り飲食コーナー又はゲームの補助
	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2019
	第19回につしん市民まつり
	第Q回記念大会 GIFU HALF MARATHON
子どもと接する (8件、25人)	平成30年度 日進市福祉会館 子どもまつり
	子どもの宿題などの学習支援
	東浦町3校合同わくわく算数・数学教室 スクールパートナー
	そよかぜフリースクール 楓老人憩いの家での子ども学習支援
	遊びの交流会 名古屋学芸大学
	名古屋学芸大学 こども大学プロジェクト
	子ども食堂開催日の子どもの見守り他(岡崎市 おいでん家)
	2019年度 ホームフレンド
学生企画及び運営 (4件、14人)	につしん夢まつり実行委員会
	2018 長久手市福祉まつり 出展
	竹の山ふれあい夏まつり
	につしんわいわいフェスティバル実行委員会
清掃活動(1件、3人)	やろまいか！ 愛・地クリーン作戦！！
その他 (7件、17人)	日進市防災訓練
	スペシャルオリンピックスをもっと知っていただく講座「ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解」
	名古屋グランパス&SON・愛知 サッカー教室
	スペシャルオリンピックス日本・愛知 スポーツプログラム
	長久手 高齢者との交流
	長久手市 カフェでの高齢者との交流
	スペシャルオリンピックス愛知・日本 第9回 ジョギングフェスティバル(スペシャルオリンピックス日本・愛知 設立20周年記念)
復興インターン (2件、14人)	復興・創生インターン 説明会
	復興・創生インターン 実践型インターン
学べる被災地での地域 コミュニティづくり (2件、17人)	学べる被災地での地域コミュニティづくり2
	学べる被災地での地域コミュニティづくり3

表 5-2 2019 年度ボランティア派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する (2件、2人)	愛知県医療療育総合センター「センターふれあいフェスティバル」(旧コロニー祭)
	名東区ふれあい交流会
イベント・祭りの運営 (9件、57人)	にしんわいわいフェスティバル 「出展団体」
	にしん夢まつり実行委員会
	にしんわいわいフェスティバル ボランティアスタッフ
	鯨レレ万博(音楽フェスティバル)運営
	2019年第11回スペシャルオリンピックス日本・愛知 夏季地区大会
	愛知育児院「ふれあいまつり」
	特別養護老人ホームつばき つばき祭り
	第20回にしん 市民まつり学生ボランティア
	第14回あゆみまつり
子どもと接する (9件、38人)	福祉会館「子どもまつりボランティア」
	西小地区社協子どもサロン もりもり元気食堂
	「もりもり元気食堂」夏の延長版
	おいでん屋 子ども食堂 夏休みおいでん
	ココカラ 子ども食堂
	急募キッズチャレンジのお手伝い
	夏休みこどもの学習援助ボランティア募集
	日進市絆子ども食堂
	東浦町学生ボランティア事業(令和元年度) 学生ボランティア(スクールパートナー)
清掃活動(1件、15人)	やろまいか！愛・地クリーン作戦！
その他 (3件、10人)	南小学校区防災訓練のボランティアに参加しませんか？
	G 20 愛知・名古屋外務大臣会合 大学生語学
	ボランティアコーディネーターと行く！ボランティア体験講座
復興インターン(1件、3人)	復興・創生インターン説明会

表 5-3 2020 年度ボランティア派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する(1件、2人)	グランドソフトボールの練習会の補助 ボランティア募集
イベント・祭りの運営 (1件、19人)	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2021 ボランティア募集！ (ランナー受付やコース整理などのイベント運営)
子どもと接する(2件、5人)	日進版こどものまち事業「おいでよ！子どものまち」学生ボランティア募集
	おいでん家 子ども食堂
防災人材育成プログラム (2件、12人)	防災を地域の皆様と一緒に学びませんか？(防災人材プログラム)
	防災を地域の皆様と一緒に学びませんか？(防災人材育成プログラム 2回目)

6. 2020 年度 SL 参加学生の体験報告(抜粋)

(1)社会福祉(高齢者・障がい者・子ども等)系活動

おいでよ！子どものまち： 管理栄養学科 2 年

“こどもたちのアイデアってすごい！”これが、このボランティアに参加しての感想です。実行委員の子どもたちがそれぞれタピオカ屋やパフェ屋、アクセサリー屋のお店をもち、2/27、2/28 の両日で実際にお客さんに販売します。(他にも金貸し屋やカジノもあったり…)ボランティアでは、準備期間から子どもたちのお店の看板づくりやメニュー表づくりを見守りました。お店のシミュレーションも行いました。「どうすればお店がスムーズにまわせるか」…こどもの主体性を尊重して、引き出す声かけをするのが難しかったです。また、回を重ねるごとにお店の店長として成長していく子どもたちを見てこちらまでうれしくなりました。こどもたちとあまり関わる機会がこれまでなかったのでボランティア当初は不安でしたが、だんだんと名前をおぼえてもらえたりと楽しく活動することが出来ました。今回のボランティアで自由な発想でのびのびと物事を捉えていくことは、大人になっても大切なことなのだと気づくことができました。

グランドソフトボール 補助： 管理栄養学科 2 年

今回は、視覚障がいのある方が行うグランドソフトボールの練習のサポートを行いました。今まで、視覚障がいのある方と関わったことが無かったので、初めはどのように接したら良いかなど不安がありましたが、とても温かく受け入れて下さり安心しました。グランドソフトボールは、ボールが地面に転がる音などかすかな音を聞き分け行う繊細で、なおかつ迫力のあるスポーツでした。実際に目隠しをした状態で守備の体験をさせてもらいましたが、第一に目が見えないことが恐く、ボールの転がる音だけで位置を把握するのは難しく、プレイヤーの方の素晴らしさを実感できました。活動を通して、障がいがあっても好きなことに一生懸命で、明るく障がいを感じさせない皆さんの姿を見てとても前向きな気持ちになりました。非常に貴重で良い経験ができました。

(2)環境保全(自然保護・清掃・美化等)系活動

清掃活動： 子どもケア学科・幼児保育専攻 1 年

ごみ拾いは初めて参加しましたが、地域住民の方が和気あいあいとした雰囲気でのボランティアをされていたので、とても参加しやすい印象でした。普段から中央分離帯に落ちている缶やたばこのごみは気になっていましたが、拾ってみるとその量の多さに驚きました。ごみ拾いを行うことで、次にごみを捨てる人への抑止力となれば良いなと感じました。愛・地球博が行われていた時は小さくて記憶にあまりないのですが、成長して、こういった形で今も愛されている場所に行ってボランティアができて良かったです。ボランティアをするまでのハードルはどうしても高いものだと思います。でも、こういったごみ拾いという簡単なことでも誰かの

ためになるし、自分のためにもなるなと感じました。ボランティアを終えてから、大学内で落ちているごみ等に目がいくようになりました。ごみ拾いを通じて住民の方と交流ができました。大学内だけでは交流できない方と話したり、一緒に考えたりできるのは、ボランティアだから出来ることだと思っています。

(3)文化交流(芸術・スポーツ・通訳等)系活動

マラソンフェスティバル: 子どもケア学科・児童発達教育コース 1年

初めてこのようなボランティアに参加しました。人と協力して何かをすることの楽しさと、挑戦することのすばらしさを学びました。私は今回のボランティアで集合場所へ行くと、ほとんどのボランティアの人が年上で高齢の方も多くいました。リーダーを中心に役割を決めてマラソン会場を作っていくのは非常に楽しかったです。他に警察の人、警備員の人もいてイベント1つで多くの人が関わっていることを実感しました。ボランティアを行った中で私が一番心に残っていることは走っている人に「ありがとう」と感謝されたことです。コースの横で手をたたいて応援をしていたのですが笑顔で「ありがとう」と言って走っていくランナーの人が何人かいました。言われたときは本当に嬉しくてやってよかったと思ったし感動しました。ランナーの人は様々な人がいて思ったより年齢層が広く驚きました。必死で走る姿がかっこよくて自分も挑戦したいなと思わせるほどでした。

(4)安全防災(安全対策・防災活動・災害等)系活動

防災人材育成プログラム(災害エスノグラフィー): 管理栄養学科 3年

災害エスノグラフィーというものを初めてきいたが、読んでいくと、当時の様子やどんな行動をして、どのような良い点、悪かった点があったか、どんなことが大変だったかななどのイメージがしやすく今まで私自身が知っていたこと以外のことも学ぶことが出来た。また、学生の意見や考えを普段きいているが、私と世代の違う方の意見や考えをきくことが出来て、より勉強になったと感じたし、新鮮であった。あまり災害について時間を作って振り返ることはなかったが、今回参加してみて、追体験したことで、公衆電話の使い方、場所を数ヶ所頭に入れておくこと、災害に合った人はもちろん、支援してくれる人の声もきいてサポートをしていくことが重要であると感じた。普段私はあまり出来ていないが、日頃から地域の人とコミュニケーションをとることで、災害などのいざというときにみんなで協力してのりきることができると知ったので、これから意識して生活していきたいと感じた。

防災人材育成プログラム(DIG): 管理栄養学科 2年

私は今回のプログラムを通して初めて DIG というものを行った。大学周辺の状況から地震発生時に起こることを予測し、家庭・地域でできる対策について考えた。

日進市民ではないので状況が分かりづらく予測がしにくかったが、参加者である日進市民の方の意見を聞きながら対策を考えることができた。今まで災害のための対策といえば、防

災グッズを準備しておく、避難場所を確認しておくなど家庭でできるもののイメージが大きかった。しかし、災害時に起こりうることとして他の参加者の方から帰宅困難者が出るという意見があり、大学にいる時に災害が起こった場合、どのような手段で帰宅するのかを考えなければならないと感じた。また、今後自分が支援する側になった時は適切な支援を適切な方法で行うために地域の状況・特性を把握しておく必要があると学ぶことができて良かった。

(5)地域活動(まちづくり・地域イベント・観光案内等)系活動

子ども食堂： 管理栄養学科 3 年

調理をしているときは、地域のボランティアの方々と関わることが多かった。高齢の方が多いにもかかわらず、とても元気で、生き生きしている人ばかりで、たくさんの会話があって、ボランティアの方々も交流をたのしみにきていることが分かった。子ども 37 人くらいに対して学生 3 人だったから、一人一人に勉強を教えたり、みんなと遊ぶことが出来なかったからそこをできるだけ平等にしようとするのがとてもむずかしかった。いろいろな子どもがいる中で、おとなしい子にもしっかりと目を向けることができたかなと思う。今回は、とても外が暑かったにもかかわらず、元気に外で遊んでいる子が多く、うらやましかった。元気いっぱいの子どもたちからたくさんの元気をもらった。

7. 復興支援活動

2019 年度末に、みなみそうま SL^{*}視察を行い、2020 年度から実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて活動を休止した。

同じく、2020 年春に復興・創生インターン岩手県・宮城県に各 1 人の学生が参加したが、この報告会も開催できなかった。

復興庁は、「東日本大震災で被害を受けた岩手、宮城、福島企業が抱える経営課題に対し、全国から大学生等を募集し、インターンとして経営者と協働して解決に取り組むことにより、学生にとっては、復興への貢献と自らの成長を図り、企業にとっては、学生とともに経営改善に取り組むことにより、人材獲得力や育成力の向上を図ることを目的として平成 29 年度から令和 2 年度の 4 年間実施しました。」と HP で報告している。

<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat4/sub-cat4-2/20210405143502.html>

20210611 取得

※みなみそうま SL とは、本学独自の東北ボランティア活動で、オトナの食育をテーマとした地域資源の活用と農業振興の両立プロジェクトで日進キャンパス 3 学部の学生対象に募集している学生の学びを生かした事業である。

8. ぼうさいこくたい 2020

2019年度の東北支援活動を、2020年10月4日「ぼうさいこくたい2020(オンライン)」で報告した。報告は、活動報告の映像に加え、参加者からの質問に meet in を利用して回答を行うものであった。

報告者は、復興・創生インターン(岩手県1人・宮城県1人)、みなみそうまSL(4人)。

報告の詳細は以下の website を参照

ぼうさいこくたい2020 名古屋学芸大学

<http://bosai-kokutai.jp/2020/presentation/detail/PR-68/>

Ⅲ. 2020年度の地域連携活動データ

1. 活動件数

活動分類 \ 連携先等			行政機関 (医療・保健機関を除く)		教育機関			医療・保健機関	企業	NPO等	専門職業人	一般市民	その他	計
			日進市	その他	大学	高、等	幼・小・中							
連携協定	0	包括的連携協定等	1	3	2	1		4	1	2				14
研究連携	1-1	共同研究・受託研究等			3	1			8	2				14
	1-2	コンサルタント・技術指導等												0
	1-3	各種審議会・委員会等への参画	11	44	2	1	6	3	9					76
	1-4	教員の講師派遣	2	10		3	1	1	3					20
	1-5	その他	2	3	1	6	2		1			1		16
研究・教育連携	2-1	協同プロジェクト(商品開発・プロモーション等)	2	1				1	6					10
	2-2	地域課題解決・地域行事協力	2	3						2				7
	2-3	産官学協同研究センターの協同プロジェクト	5	3				8						16
	2-4	その他(研究・教育連携)	1	2						1	2		1	7
教育連携	3-1	社会人教育(公開講座・生涯学習含む)										13		13
	3-2	職業人教育(寄附講座含む)		25		2	2	1			12			42
	3-3	地域人材の育成		3		1								4
	3-4	幼・小・中・高生教育				5		1					2	8
	3-5	授業に関連したボランティア(単位付与)			1	1	2						1	5
	3-6	SLC経由のボランティア	2				2						1	5
	3-7	その他のボランティア								1				1
その他の連携等	4	施設開放など										1		1
合 計														259

2. 活動一覧

0. 協定

番号	内 容	所属	代表者	相手先	期 日
1	日進市との連携協力に関する協定	大学	杉浦康夫	日進市	2010年2月～
2	日本赤十字社愛知県支部との連携協力に関する協定	大学	杉浦康夫	日本赤十字社愛知県支部	2014年11月～
3	熊野市との連携協力に関する協定	大学	杉浦康夫	熊野市役所	2015年6月～
4	高大連携に関する協定	大学	杉浦康夫	愛知県公立高等学校校長会家庭部会	2015年7月～
5	菰野町との包括的連携に関する協定	大学	杉浦康夫	菰野町	2015年7月～
6	名古屋商工会議所との連携・協力に関する協定	大学	杉浦康夫	名古屋商工会議所	2015年11月25日～ 2020年11月24日
7	愛知学長懇話会による単位互換事業	大学	杉浦康夫	愛知学学長懇話会(愛知県内の単位互換事業参加各大学)	2002年4月～
8	愛西市及び愛西市農畜産業振興会との連携協定	大学	杉浦康夫	愛西市、愛西市農畜産業振興会	2017年1月～
9	(福)中日新聞社会事業団との連携協定	大学	杉浦康夫	(福)中日新聞社会事業団	2017年12月～
10	医療法人大医会との連携協定	大学	杉浦康夫	医療法人大医会	2019年3月～
11	東名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携に関する協定	大学	杉浦康夫	東名古屋医師会医療介護総合研究センター	2019年10月～
12	名城大学総合研究所との学術研究交流に関する協定	管理栄養学部	和泉秀彦	名城大学総合研究所	2016年4月1日～ 2024年3月31日
13	名古屋市中央卸売市場本場、(一社)名古屋中央卸売市場協会との連携協定	管理栄養学部	和泉秀彦	名古屋市中央卸売市場本場、(一社)名古屋中央卸売市場協会	2017年12月～
14	医療法人尚豊会との包括連携協定	管理栄養学部	和泉秀彦	医療法人尚豊会	2018年4月～

1-1. 共同研究・受託研究等

番号	組織名	内 容	代表者		期 間
1	野村不動産ライフ＆スポーツ㈱	栄養関連サービス開発・提供	管理栄養学部	和泉秀彦	2019年4月～
2	名古屋大学未来社会創造機構ナノライフシステム	地域在住高齢者に対する放送メディアを活用した健康行動促進プログラムの効果検証に関する研究	管理栄養学科	岡田希和子	2019年4月～
3	名古屋大学未来社会創造機構ナノライフシステム	地域在住高齢者に対する複合的な教育・実践プログラムの効果検証に関する研究	管理栄養学科	岡田希和子	2020年1月～
4	ホシザキ㈱	受託研究「電解水の殺菌洗浄特性の解明および使用マニュアルの制作」	管理栄養学科	岸本満	2020年4月～ 2021年3月
5	朝日メンテナンス工業㈱	栄養科学研究科寄附講座「食品安全マネジメントシステム(FSMS)特論」	管理栄養学科	岸本満	2020年9月～ 2021年3月
6	㈱LIXIL	共同研究「トイレ組込み尿塩分測定装置開発に関する研究」	管理栄養学科	塚原丘美	2017年度～
7	㈱八百彦本店	スマートミールの基準に沿った弁当の開発	管理栄養学科	塚原丘美	2020年2月～

8	山形大学	米由来タンパク質の特性評価	管理栄養学科	山田千佳子	2019年9月～
9	㈱八百彦	学芸大オープンキャンパス参加者用のランチ弁当の共同制作	管理栄養学科 デザイン学科	山田千佳子 尹成済	2020年度
10	トヨタ自動車(㈱)トヨタ自動車ラグビー部ヴェルブリッツ	地域貢献連携推進プロジェクト(産学協同によるラグビー普及活動・地域貢献のためのデザイン協力)	デザイン学科	富安由紀子	2020年度
11	至学館大学付属幼稚園	教育実践を深める共同研究	子どもケア学科	想厨子伸子	2020年度～
12	㈱ツムラ	生殖補助医療に関わる研究	看護学科	菅沼信彦	2020年12月～
13	長久手市役所、NPO法人つづら、ござらっせ温泉	介護予防事業が利用者・支援者の日常生活に与える影響－総合事業参加者の介護予防に関連する要因の分析－	看護学科	鈴木岸子	2018年4月～ 2021年1月
14	岐阜市社会福祉協議会、千種区社会福祉協議会他	地域における介護予防・日常生活支援総合事業推進に必要な生活支援コーディネーターの知識・技術・能力および支援の在り方	看護学科	鈴木岸子	2019年4月～ 2021年3月

1-2. コンサルタント・技術指導等

番号	組織名	内 容	所 属	氏 名	期 間
1					

1-3. 各種審議会・委員会等への参画

番号	組織名	審議会委員等の名称	所 属	氏 名	任 期
1	NPO法人日本医学歯学情報機構	日本医学歯学情報機構 理事	学長	杉浦康夫	2020年4月～ 2022年3月
2	静岡県	静岡県防災・原子力学術会議委員及び原子力分科会会長	副学長	山本一良	2020年4月～ 2022年3月
3	(公社)原子力安全研究協会	令和2年度「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」事後評価委員会 委員	副学長	山本一良	～ 2021年3月
4	日進市	日進市行政改革推進委員会委員	副学長	恒川孝司	
5	愛知県保険医療局健康医務部健康対策課	食生活改善支援事業検討会議 構成員	管理栄養学科	安達内美子	2019年度9月～
6	日進市農政課	日進市食育推進委員会	管理栄養学科	安達内美子	2013年10月～
7	長久手市みどりの推進課	長久手市食育推進支援会議	管理栄養学科	安達内美子	2017年3月～
8	愛知県食育消費流通課	第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会 委員	管理栄養学科	安達内美子	2021年3月～ 2023年3月
9	愛知県食育消費流通課	第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会 企画委員会 委員	管理栄養学科	安達内美子	2021年3月～
10	愛知県教育委員会	愛知県産業教育審議会 委員	管理栄養学科	池田彩子	2015年1月～ 2023年1月
11	(独)大学改革支援・学位授与機構	学位審査会専門委員	管理栄養学科	池田彩子	2017年4月～ 2023年3月
12	日本学術会議事務局	日本学術会議第25期連携会員	管理栄養学科	池田彩子	2020年10月～ 2026年9月

13	認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク	アレルギー支援ネットワーク 理事	管理栄養学科	和泉秀彦	2009年度～
14	日進市	日進市保育施設等事故検証委員会 委員	管理栄養学科	和泉秀彦	2017年度～
15	名城大学農学部・農学研究科	学部評価委員	管理栄養学科	和泉秀彦	2020年度
16	名古屋市地域環境対策部公害保険課	乳幼児アレルギー実態把握等懇談会（メール会議）	管理栄養学科	榎村春江	2020年12月
17	農林水産省食料産業局食品製造課食品企業行動室	小学校給食調理等業務委託事業者評価委員	管理栄養学科	岸本満	2020年4月～ 2021年3月
18	名古屋大学医学部・医学系研究科医学部付属病院	特定認定再生医療等委員会 委員	管理栄養学科	北川元二	2020年4月～ 2022年3月
19	(公社)日本栄養士会	食物アレルギー管理栄養士・食物アレルギー栄養士認定制度 認定委員	管理栄養学科	高田尚美	2020年4月～ 2022年6月
20	新城市教育委員会	新城市学校給食共同調理場整備事業検討業務アドバイザー	管理栄養学科	高田尚美	2020年5月～ 2021年3月
21	岡崎市教育委員会	岡崎市学校給食献立作成討議会 委員	管理栄養学科	高田尚美	2020年5月～ 2021年3月
22	(株)日建設計総合研究所	岡崎市新西部学校給食センター整備基本計画の策定及びPFI導入可能性調査業務における「学校給食改善検討委員会」委員	管理栄養学科	高田尚美	2020年4月～8月
23	豊橋市	豊橋市民病院患者給食業務プロポーザルにかかる評価委員	管理栄養学科	高田尚美	2021年2月～5月
24	公益財団法人愛知県学校給食会	公益財団法人愛知県学校給食会 評議員	管理栄養学科	塚原丘美	2016年度～
25	東名古屋医師会 医療介護総合研究センター	在宅医療・介護連携支援センター連絡協議会 委員	管理栄養学科	塚原丘美	2018年度～
26	愛知県糖尿病療養指導士認定機構	愛知県糖尿病療養指導士認定機構運営委員会委員(研修会委員)	管理栄養学科	塚原丘美	2019年度～
27	(公財)名古屋市文化振興事業団	ファン・デ・ナゴヤ美術展 企画委員	映像メディア学科	伏木啓	2020年4月～ 2021年3月
28	日進市教育委員会	日進市民美術展覧会「2020日進展」写真部門審査員	映像メディア学科	村上将城	2020年9月
29	愛知県	愛知県商店街活性化プラン策定委員会 委員	デザイン学科	富安由紀子	2021年2月～ 2022年3月
30	(財)日本ファッション教育振興協会	ファッションビジネス能力検定委員会 委員	ファッション造形学科	水嶋丸美	2021年3月～ 2022年2月
31	半田市教育委員会	半田市教育点検評価会議	子どもケア学科	浅田謙司	2017年度～
32	文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室	令和2年度市町村教育委員会オンライン協議会(ZOOM)	子どもケア学科	浅田謙司	2021年2月
33	日進市	日進市保育運営協議会 委員(会長)	子どもケア学科	石垣儀郎	2014年度～
34	名古屋市教育局	名古屋市立高等学校キャリア支援モデル事業におけるキャリア支援アドバイザー	子どもケア学科	石垣儀郎	2018年度～
35	日進市	令和2年度日進市保育園運営協議会 委員	子どもケア学科	石垣儀郎	2020年4月～ 2021年3月
36	日進市	にぎわい交流館運営協議会委員	子どもケア学科	石原貴代	2015年度～
37	愛知県教育委員会	令和2年度愛知県教科用図書選定審議委員会委員	子どもケア学科	大原榮子	2020年4月～8月

38	東海市教育委員会	令和2年度東海市不登校対策協議会 委員	子どもケア学科	大原 榮子	2020年4月～ 2021年3月
39	東海市教育委員会	令和2年度東海市子どものいじめ防止等対策委員会 委員	子どもケア学科	大原 榮子	2020年4月～ 2021年3月
40	東海市社会福祉協議会	東海市ひきこもり支援連携委員会 委員	子どもケア学科	大原 榮子	2020年4月～ 2022年3月
41	愛知県教育委員会	愛知県教科用図書採択地区適正規格化検討会議 委員	子どもケア学科	大原 榮子	2017年度～
42	豊田市教育委員会	豊田市教育特区学校審議会 委員	子どもケア学科	佐藤 洋一	2016年度～
43	愛知県教育委員会	令和2年度愛知県公立高等学校入学選抜方法協議会議委員	子どもケア学科	佐藤 洋一	2020年7月～ 2021年3月
44	安城市教育委員会	安城市いじめ問題対策委員会 委員	子どもケア学科	佐藤 洋一	2017年度～
45	名古屋市教育委員会	学校評議員(名古屋市立桜山中学校)	子どもケア学科	佐藤 洋一	2014年度～
46	日本養護教諭養成大学協議会	教育課程(カリキュラム)検討委員会及び養成制度(法制度)検討委員会 委員	子どもケア学科	竹中 香名子	2020年4月～ 2021年3月
47	名古屋市子ども青少年局	保育所等の公募に係る評価委員	子どもケア学科	津金 美智子	2019年度～
48	日進市役所企画政策課市政戦略係	日進市総合計画審議会 委員	子どもケア学科	津金 美智子	2018年度～
49	日進市こども未来部子育て支援課	日進市子ども施策推進会議 委員長	子どもケア学科	津金 美智子	2016年度～
50	愛知県教育委員会	令和2年度愛知県幼児教育研究協議会 委員	子どもケア学科	津金 美智子	2020年5月～ 2021年3月
51	国立教育政策研究所	プロジェクト研究「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」 委員	子どもケア学科	津金 美智子	～ 2021年3月
52	名古屋市教育委員会	名古屋市子どもいきいき学校づくり推進会議委員	子どもケア学科	津金 美智子	2019年度～
53	日進市こども福祉部	日進市保育施設等事故検証委員会 委員	子どもケア学科	西村 美佳	2017年度～
54	大府市教育委員会	スクールカウンセラー・適応指導会議アドバイザー	子どもケア学科	浜田 恵	2020年4月～ 2021年3月
55	大府市教育委員会	大府市適応指導推進会議	子どもケア学科	浜田 恵	2016年度～
56	愛知県教育委員会	愛知県公立学校教員採用選考試験検討会議 委員	子どもケア学科	山田 敏子	2020年10月
57	名古屋市教育委員会	名古屋市立高等学校令和2年度キャリア支援モデル事業におけるキャリア支援アドバイザー	子どもケア学科	横井 直子	2020年4月～ 2021年3月
58	愛知県教育委員会	令和2年度家庭教育企画委員会 委員	子どもケア学科	渡辺 桜	2020年4月～ 2021年3月
59	知多市こども未来部	知多市全体的な計画の見直し検討会	子どもケア学科	渡辺 桜	2019年度～ 2020年度
60	みよし市	みよし市児童育成計画審議会 みよし市保育所管理運営法人選定審査会 委員	子どもケア学科	渡辺 桜	2020年4月～ 2024年3月
61	名古屋市立中央看護専門学校	名古屋市立中央看護専門学校取組検証等有識者懇談会構成員	看護学科	浅野 妙子	2020年4月～ 2021年3月
62	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課	愛知県健康づくり推進協議会 会長	看護学科	五十里 明	2013年度～

63	愛知県福祉局福祉部福祉総務課	次期あいち健康福祉ビジョン策定検討委員会(仮称) 委員	看護学科	五十里明	2020年7月～ 2021年3月
64	名古屋市健康福祉局感染症対策室	名古屋市感染症診査協議会会長・感染症部会部会長	看護学科	五十里明	2019年度～
65	愛知県国民健康保険団体連合会	支援・評価委員会委員長	看護学科	五十里明	2014年度～
66	日進市健康福祉部地域福祉課	日進市地域包括ケア検討会議会長	看護学科	五十里明	2015年度～
67	愛知県保健医療局健康医務部こころの健康推進室	愛知県アルコール健康障害対策推進会議 会長	看護学科	五十里明	2018年度～
68	豊田市	豊田市男女共同参画推進懇話会座長	看護学科	石田路子	2012年度～
69	千葉県	障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり推進会議	看護学科	石田路子	2018年度～
70	名古屋市	大学政策推進委員会委員	看護学科	石田路子	2019年度～
71	豊田市	豊田市 はたらく人がイキイキ輝く事業所表彰選考委員会 委員	看護学科	石田路子	2019年度～
72	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課	千葉県障害者施策推進協議会 委員	看護学科	石田路子	2018年4月～ 2022年3月
73	(株)日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門	令和2年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「介護施設等における安全管理体制等のあり方に関する調査研究事業」委員会 委員	看護学科	石田路子	2020年8月～ 2021年3月
74	(株)日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門	令和2年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「保険外サービス活用推進に関する調査研究事業」委員会 委員	看護学科	石田路子	2020年8月～ 2021年3月
75	(一社)日本集中治療医学会	臨床倫理委員会 委員	看護学科	大野美香	2020年1月～12月
76	愛西市健康子ども部健康推進課	愛西市地域保健対策協議会 委員	看護学科	佐久間清美	2019年度～

1-4. 教員の講師派遣

番号	依頼先	講義等の内容	所 属	氏 名	日 時
1	いきいき塾NPO絆	いきいき塾NPO絆フードパントリー講演会	管理栄養学科	安達内美子	2020年12月
2	ファイザー(株)	東名小屋こどもフォーラム2020(WEB講演会)「現代の子ども達の食生活と発育」	管理栄養学科	楳村春江	2020年9月
3	豊橋市教育委員会	令和2年度豊橋市教員免許状更新講習 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年6月
4	(学)糸菊学園 名古屋調理師専門学校	専門課程調理師科ヘルスケア調理コース課外授業「生活習慣病と食事について」講師	管理栄養学科	塚原丘美	2020年9月
5	日進市健康福祉部健康課	令和2年度食生活改善推進員養成講座「生活習慣病と食事」講師	管理栄養学科	塚原丘美	2021年1月
6	尾張旭市教育委員会	食育推進講演会「コロナに負けない健康づくり」講師	管理栄養学科	藤木理代	2021年2月
7	日進市立図書館	大学連携事業「飛び出すプレゼントカードづくり」講師	映像メディア学科	草野圭一	2020年8月
8	(福)愛光園 知多地域障害者生活支援センターらいふ	令和2年度障害児等療育支援事業に関わる講師	子どもケア学科	浅田謙司	2020年9月

9	東海市社会福祉協議会	家族会 講師	子どもケア学科	大原 榮子	2020年6月、9月、 2021年2月
10	東海市	「子どもの自立と未来を語る会」 講師	子どもケア学科	大原 榮子	2020年8月
11	安城市教育委員会	安城市教員派遣研究生 指導教員	子どもケア学科	佐藤 洋一	2020年4月～ 2021年3月
12	滋賀県教育委員会	令和2年度幼稚園教育課程及び教育課題研究協議会 講師	子どもケア学科	津金 美智子	2020年8月
13	大分教育庁幼児教育センター	令和2年度幼稚園教育課程大分県協議会 講師	子どもケア学科	津金 美智子	2020年10月
14	静岡県教育委員会	第2回市町幼児教育アドバイザー研修会(オンラインZOOM) 講師	子どもケア学科	津金 美智子	2021年2月
15	(公社)愛知県医師会	第35回学校保健健診懇談会 講師	子どもケア学科	都築 一夫	2021年1月
16	刈谷市立依佐美中学校	主題全体会 講師	子どもケア学科	松崎 利美	2020年11月、 2021年1月
17	西尾市立福地南部小学校	現職教育講演会 講師	子どもケア学科	松崎 利美	2021年2月
18	愛知県教育委員会	「親の育ち」子育てネットワーク養成講座 講師	子どもケア学科	渡辺 桜	2019年10月
19	イーブルなごや(名古屋市男女 平等参画推進センター・女性会 館)	講座「イヤイヤ期の子育てに大切なこと」 講師	子どもケア学科	渡辺 桜	2020年12月
20	FUTURE CARE CLUB	介護報酬改定と今後の介護の方向性について 講師	看護学科	石田 路子	2020年10月

1-5. その他の研究連携

番号	連携先	連携の内容	所 属	氏 名	日 時
1	日進絆子ども食堂	卒業研究における研究協力	管理栄養学科	安達内 美子	2018年度～
2	医療法人大医会	名古屋学芸大学と医療法人大医会との連携プロジェクトチーム会議	地域連携推進 研究機構長	岸本 満	2019年度～
3	農林水産省食料産業局食品製造課食品企業行動室	産官学連携による食品安全専門人材育成研究会(ZOOM)	管理栄養学科	岸本 満	2020年12月
4	地域在住高齢者	健康高齢者における長期疫学フォローアップ研究	管理栄養学科	岡田 希和子	2019年度～
5		厚生労働省難治性疾患政策研究事業「小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究」班研究協力 嚢胞性繊維症患者の栄養ケア	管理栄養学科	藤木 理代	2007年度～
6	菱野幼稚園	発達障害児への遊びや活動をととした支援	子どもケア学科	大島 光代	2018年度～
7	多加良浦保育園・ドレミこども園	LD予備群の年長児への遊びをととした支援	子どもケア学科	大島 光代	2019年度～
8	瀬戸市立幡山西小学校	発達性読み書き障害等発達障害児の言語力向上	子どもケア学科	大島 光代	2020年9月～ 2021年2月
9	瀬戸市立幡山東小学校	発達性読み書き障害等発達障害児の言語力向上	子どもケア学科	大島 光代	2020年9月～ 2021年2月

10	瀬戸市立幡山西小学校	発達性読み書き障害が疑われた年長児の追跡調査	子どもケア学科	大島光代	2020年10月
11	瀬戸市立幡山東小学校	発達性読み書き障害が疑われた年長児の追跡調査	子どもケア学科	大島光代	2020年10月
12	日進市市民協働課	大学提案型日進市協働連携事業 幼児向けESD事業「お話絵本と親子で楽しむ野菜料理ー野菜を美味しく食べられるようにー」	子どもケア学科	大島光代	2020年11月
13	日進市市民協働課	大学提案型日進市協働連携事業 幼児向けESD事業「お話絵本と親子で楽しむ野菜料理ー野菜を美味しく食べられるようにー」	子どもケア学科	大島光代	2020年12月
14	三重県津市健康福祉部	地域包括ケア・医療介護連携システム推進事業研究会	看護学科	石田路子	2018年度～
15	奈良県立医科大学	窓側病床への入院が院内転倒予防に及ぼす影響ー多施設前向きコホート研究ー(2019年度文部科学省科学研究費助成)	看護学科	岩本淳子	2016年度～
16	三重県いなべ総合病院	窓側病床への入院が院内転倒予防に及ぼす影響ー多施設前向きコホート研究ー(2019年度文部科学省科学研究費助成)	看護学科	岩本淳子	2016年度～

2-1. 協同プロジェクト(商品開発、プロモーション等)

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時	
1	日進市健康課	提案型大学連携協働事業:若年成人に対する食育推進のための「ヘルピー健康だより」(日進市の健康だより)作成	管理栄養学科 デザイン学科	安達内美子 富安由紀子	2016年度～	
2	日進市農政課	提案型大学連携協働事業:日進おいしいお宝マップ～みんなのまた〇〇したい町～(子ども発信型食育教材の開発)	管理栄養学科	安達内美子	2020年度～	
3	㈱八百彦本店	スマートミールの基準に沿った弁当の開発	管理栄養学科	塚原丘美	2020年2月～	再掲
4	㈱名給	献立展示会 共同開発した献立をWEB公開	管理栄養学科	藤木理代	2021年3月	
5	愛知県赤十字血液センター 献血ルーム ゲートタワー26	献血ルームゲートタワー26&名古屋学芸大学コラボレシビ「血色素(ヘモグロビン)不足改善レシビ」作成	管理栄養学科	南 亜紀	2018年～	
6	㈱八百彦	学芸大オープンキャンパス参加者用のランチ弁当の共同制作	管理栄養学科 デザイン学科	山田千佳子 尹成済	2020年度	再掲
7	サカエチカマチ(㈱)	クリスタル広場のLEDディスプレイ映像投影	映像メディア学科	齋藤正和	2021年1月～ 2021年2月	
8	熊野市農林業振興課	熊野産木材を使った「新たな特産品づくり事業」における官学協同プロジェクト 2020年度は、子ども施設のための遊具デザイン企画・制作	デザイン学科	平光無門	2012年度～	
9	㈱名古屋三越 ラシック事業部	商業施設「ラシック」マーケティング戦略	ファッション造 形学科	高橋里美	2020年8月～ 2021年1月	
10	㈱三起	Makuake 機能性マスクプロジェクト	ファッション造 形学科	高橋里美	2020年8月～ 2021年4月	

2-2. 地域課題解決・地域行事協力

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	長久手市、㈱スギ薬局	高齢者の自立支援を見据えた自治体の介護予防・日常生活支援総合事業に栄養支援を組み合わせた効果の検証	管理栄養学科	岡田希和子	2020年4月～ 2025年3月

2	日進市健康課	にっしん体操の曲制作	映像メディア学科	森幸長	2010年7月～
3	長久手市	「さかそうながくてじちのはな」の楽曲制作	映像メディア学科	森幸長	2018年7月～
4	日進市健康課	にっしん手洗いの唄の曲制作	映像メディア学科	森幸長	2020年6月～
5	大府市	市制50周年 大府の象徴を絵に	子どもケア学科	水谷誠孝	2021年8月20日
6	感情調節困難な方と向き合う家族の会「一步一步の会」	「感情調節困難な当事者」と向き合う地域家族会プログラムの構築(科学研究費:若手研究B)	看護学科	木野有美	2016年度～
7	感情調節困難な方と向き合う家族の会「一步一步の会」	「感情調節困難な当事者」と向き合う地域家族会プログラムの構築	看護学科	永井邦芳	2019年度～

2-3. 産官学協同研究センターの協同プロジェクト

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	JR東海(東海旅客鉄道㈱)	JR東海沿線のお取り寄せWebサイト『いいもの探訪』の「ものと生産者の魅力を伝える特集ページ」の制作	デザイン学科	梶田 渉	2020年7月1日～ 2021年1月31日
2	JR東海(東海旅客鉄道㈱)	JR東海沿線のお取り寄せWebサイト『いいもの探訪』の「ものと生産者の魅力を伝える特集ページ」の制作	デザイン学科	尹成濟	2020年7月1日～ 2021年1月31日
3	レゴランド・ジャパン(㈱)	コロナ禍でもゲストを満足させるサービスやイベントの提案	デザイン学科	梶田 渉	2020年9月16日～ 2021年3月16日
4	レゴランド・ジャパン(㈱)	産学協同プロジェクト開発商品「HAPPY LEGOLAND BOX」発売	デザイン学科	梶田 渉	2020年11月14日～
5	㈱ドリーム	美容、健康を中心とした新商品開発	デザイン学科	梶田 渉	2020年6月17日～ 2020年11月11日
6	ブライムツリー赤池	ショッピングモール「ブライムツリー赤池」イベント企画・運営 体験型展示イベント「いこうぜ！そらべる」	デザイン学科	尹成濟	2020年6月8日～ 12月13日
7	㈱長久手温泉(長久手市長寿課事業受託事業者)	長久手市のPRと「ながくてハーモニー体操」を市民に普及させる映像制作	映像メディア学科	齋藤正和	2020年10月1日～ 2021年1月31日
8	日進市生涯学習課	日進市主催の新しい音楽祭「にっしん音結祭」広報デザイン(プログラム・ポスター)	デザイン学科	梶田 渉	2020年9月14日～ 12月20日
9	日進市教育委員会 生涯学習課	日進市主催の新しい音楽祭「にっしん音結祭」の映像撮影・編集	映像メディア学科	齋藤正和	2020年12月19日～ 12月20日
10	日進市教育委員会 生涯学習課	「日進市生涯学習情報誌 PLAN」の表紙デザイン制作(年3回)	デザイン学科	梶田 渉	2007年4月1日～
11	日進市教育委員会 生涯学習課	「日進市家庭教育推進委員会合同情報誌 かすい」の表紙デザイン(年1回)	デザイン学科	梶田 渉	2004年9月1日～
12	日進市教育委員会 生涯学習課	旧市川家住宅開館5周年記念イベントのフライヤー・ポスター制作	デザイン学科	梶田 渉	2020年3月9日～ 4月6日
13	尾張旭市企画部企画課	2019年度に制作した「尾張旭市で子育てをすることの魅力」を伝えるPR動画放送開始(2020年8月24日～)	映像メディア学科	渡部 眞	2019年4月16日～
14	尾張旭市企画部企画課	2019年度に制作した「市政50周年記念ロゴマーク」を記念事業の認定商品、記念事業のイベント、市庁舎のバナー、尾張旭駅の懸垂幕等に展開	デザイン学科	梶田 渉	2019年4月16日～

15	尾張旭市企画部企画課	2018年度に制作した「すくすくのびのび尾張旭市」定住促進PRポスターの特大サイズバナーを愛知県森林公園内に掲出	デザイン学科	梶田 渉	2019年6月1日～
16	㈱中日新聞社・栄中日文化センター	栄中日文化センターにおける事業内容と現状のユーザー像を深く理解し、今後に向けた新しいコンテンツを開発し、その価値を世間に届ける提案	デザイン学科	富安由紀子	2020年9月24日～2021年6月30日

2-4. その他(研究・教育連携)

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	日進市健康福祉部地域福祉課	介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービスC 受託事業	管理栄養学科	伊藤勇貴	2017年度～
2	幸田町教育研究会	令和2年度幸田町教育研究会第5研究部 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年12月
3	みよし市総務部防災安全課	みよし市の防災倉庫調査及び防災倉庫を活用した防災教育の研究	子どもケア学科	石原貴代	2020年1月～ 2021年3月
4	保育園設計士	異業種による保育映像視聴での意見交換会(ZOOM)	子どもケア学科	渡辺桜	2021年2月
5	大学教員・福祉施設職員	福祉・障害・看護にかかわる研究会(ZOOM)	子どもケア学科	渡辺桜	2018年度～
6	NPO法人Rin	保育・子育て支援の質の向上に関する勉強会(ZOOM)	子どもケア学科	渡辺桜	2020年5月～
7	卒業生(1期生、5期生、11期生・12期生・13期生のゼミ生)	保育・子育て支援の質的向上に関する意見交換会(ZOOM)	子どもケア学科	渡辺桜	2020年5月～

3-1. 社会人教育(公開講座・生涯教育含む)

番号	対 象	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	一般社会人	あま市教育委員会 令和2年度後期公民館講座 社会教育講座「食でよりよく家族の健康」	管理栄養学科	安達内美子	2020年11月14日
2	一般社会人	小牧市教育委員会 小牧市味岡市民センターつ つじ学級講座「楽しく食事をするために～モニ ングサービスなどの共食から～」	管理栄養学科	安達内美子	2020年12月17日
3	一般社会人	放送大学学園 面接授業	管理栄養学科	池田彩子	2018年～
4	一般社会人	にしん市民教室「ウォーキングで健康増進！」	管理栄養学科	藤木理代	2020年5月～ 2021年2月
5	一般社会人	朝日カルチャーセンター講演会「抗体検査で知 る新型コロナウイルスの正体～免疫力を高める生 活習慣」	管理栄養学科	藤木理代	2020年12月11日
6	一般社会人	名古屋学芸大学公開講座 「子育ての魔法を学ぼう！」	子どもケア学科	黒田美保	2020年12月12日
7	一般社会人	岩倉市生涯学習講座「生誕250年ベートーヴェン ピアノ・ソナタの世界一生演奏とともに」	子どもケア学科	岡田暁子	2020年10月25日、 12月20日
8	一般社会人	名古屋市女性会館令和2年度後期主催講座 託 児ボランティア養成講座「子育て支援で大切なこと ～子どもの心に寄り添うために～」	子どもケア学科	津金美智子	2020年12月11日
9	一般社会人	日進市大学連携講座「噛む力で健康長寿を目指 しましょう！一生活習慣病とその予防」 ZOO Mによるオンライン講座	看護学科	穴井美恵	2021年2月13日
10	一般社会人	名古屋市長働きカプルのためのパパママ教室 オンライン講座	別科助産学専攻	糟谷ちひろ	2020年10月～

11	一般社会人	愛知学院大学 モーニングセミナー「いつまでも元気で歩いて笑って生きていこう！～ぎんさんの娘さんたち、三浦雄一郎さんから学ぶ～」	健康・栄養研究所	下方浩史	2020年9月8日
12	一般社会人	コムギ協会「糖質選択ZOOMセミナー 地中海に学ぶ！糖質選択と小麦食」	健康・栄養研究所	下方浩史	2020年10月29日
13	一般社会人	碧南市 令和2年度おたっしや大学公開講座 ピンシヤン講座 いいよね！自分でできる介護予防「100歳まで元気で生きるために」	健康・栄養研究所	下方浩史	2021年1月15日

3-2. 職業人教育（寄附講座含む）

番号	対象/依頼先・相手先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	事業所給食担当者・給食事業者/愛知県春日井保健所	令和2年度食生活改善支援事業者研修会 講師	管理栄養学科	安達内美子	2020年10月
2	事業所給食担当者・給食事業者/愛知県西尾保健所	令和2年度食生活改善支援事業者研修会 「社員が『健康な食事』を選ぶための少しの工夫～ナッジ理論を活用した食堂の環境づくり～」 講師	管理栄養学科	安達内美子	2020年11月
3	助産師/(公社)愛知県助産師会	(公社)愛知県助産師会研修会 講師（オンデマンド研修）	管理栄養学科	楳村春江	2020年10月
4	朝日メインテナンス工業(株)	栄養科学研究科寄附講座「食品安全マネジメントシステム(FSMS)特論」	管理栄養学科	岸本満	2020年9月～ 2021年3月
5	栄養教諭/新城市教育委員会	令和2年度第1回栄養教諭研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年10月
6	栄養教諭及び行政担当者/岡崎市教育委員会	新学校給食センター献立作成研修 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年12月
7	東浦町生路小学校教諭	現職教育の講師	子どもケア学科	浅田謙司	2020年6月、11月、 2021年1月
8	愛知県内の看護師等養成所の 新人専任教員/愛知県立総合看護専門学校	令和2年度新人看護教員研修会 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2020年4月
9	養護教員/静岡県教育委員会健康体育課	令和2年度中堅教諭等資質向上研修(養護教員)専門研修 講師	子どもケア学科	近森けいこ	2020年12月
10	保育士/岐阜市立岐阜東幼稚園	岐阜市立岐阜東幼稚園園内研究会	子どもケア学科	津金美智子	2020年7月、10月
11	保育士/岐阜市立岐阜東幼稚園	岐阜市教育委員会指定研究発表会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年11月
12	保育士/名古屋市	幼児教育研修会	子どもケア学科	津金美智子	2020年8月
13	こども園副園長/静岡県子ども未来局	静岡市立こども園副園長研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年9月
14	保育士/江南市役所こども未来部保育課	江南市保育士研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年10月
15	名古屋市私立幼稚園新規採用教員/(公社)名古屋市私立幼稚園協会	令和2年度名古屋市私立幼稚園新規採用教員園外研修 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年12月
16	幼稚園教職員、保育所・認定こども園関係者等/石川県教育委員会	令和2年度石川園幼稚園教育研究協議会(道徳)講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年12月
17	幼稚園園長・幼稚園教諭・保育士/高知大学教育学部附属幼稚園	公開研究発表会における講演(オンラインZOOM)講師	子どもケア学科	津金美智子	2021年1月
18	新潟市立幼稚園研究主任/新潟市教育委員会	令和2年度幼稚園研究主任マネジメント研修(オンラインZOOM) 講師	子どもケア学科	津金美智子	2021年2月

再掲

19	小児科医/(公社)日本小児科医 会	第22回「子どもの心」研修会(オンライン)	子どもケア学科	浜田恵	2020年10月
20	保育士・幼稚園教諭/岐阜県発 達障害者支援センター	令和2年度岐阜県発達障害者支援センター支援 者向け対象別研修 講師(オンライン研修)	子どもケア学科	浜田恵	2020年11月
21	保育士/豊田市立高嶺こども園	園内研究講師 テーマ:「楽しく体を動かして遊ぶ 子をめざして～子どもの発達に合わせた運動遊 びを遊ぶ～」	子どもケア学科	林麗子	2020年10月
22	建築家・美術家・工芸家・美術工 芸関係者・建築関係者/(一社) 日本建築美術工芸協会	第三回aacaサロン まちとのインターフェース・人 とのインターフェース (オンライン開催)	子どもケア学科	水谷誠孝	2020年12月18日
23	名古屋市立小学校、中学校、特 別支援学校の教諭/名古屋市教 育センター	特別支援教育推進講座「キャリア教育と就労支 援」 講師	子どもケア学科	横井直子	2020年8月
24	保育士/(福)済聖会 ブライト保 育園安城桜町	園内職員研修講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年11月
25	保育士/刈谷市立日高保育園	保育教諭資質向上研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年8月
26	保育士/豊田市立足助まゆみこ ども園	園内研究講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年9月、10月
27	保育士/豊田市立中山こども園	園内研究講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年10月
28	園長/西尾市子ども部保育課	令和2年度園長研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年10月
29	保育士/(福)済聖会 しんほそぐ ち保育園	職員研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年11月
30	保育士/豊田市立寺部こども園	園内研究講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年10月、 2021年2月
31	保育士/刈谷市	保育士資質向上研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年9月
32	保育園職員・保育士/半田市健 康子ども部	園内研修・公開保育研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年6月、12月
33	保育園職員/東海市立渡内保育 園自主研究グループ	保育園職員研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年11月
34	保育士/一宮市	保育士研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年11月
35	保育士/弥富市	市立保育所の保育実践研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2020年12月
36	保育士/刈谷市立衣浦幼稚園	研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2021年2月
37	看護師	なごやナースキャリアセンター実習指導者講習会 「看護の機能と役割」講師	看護学科	浅野妙子	2017年～
38	看護師/名古屋市立中央看護専 門学校	令和2年度名古屋市臨地実習指導者講習会 講 師	看護学科	浅野妙子	2020年9月
39	京都府内保育士職員/(一社)京 都府保育協会	キャリアアップ研修 保育衛生・安全対策 講師 (ZOOMによる研修会)	看護学科	金城やす子	2021年1月
40	保育園の看護師/滋賀医科大学 小児糖尿病セミナー	滋賀小児糖尿病勉強会 講師(ZOOMによる研 修)	看護学科	金城やす子	2021年3月
41	看護師/日本看護学校協議会	教務主任養成講習会(Eラーニング) 講師	看護学科	平賀元美	2020年6月
42	助産師・看護師/国立病院機構 東海北陸グループ	助産師看護師実習指導者講習会	看護学科	平賀元美	2020年8月

3-3. 地域人材の育成

番号	対象/依頼先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	小・中学校10年経験者教諭/愛知県総合教育センター	令和2年度小・中学校10年経験者研修 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2020年8月
2	中学校教職員/岩手県北上市立飯豊中学校	中学校研修会(校内研究会) 講師(ZOOM)	子どもケア学科	松崎利美	2020年7月
3	沖縄県八重瀬地区の保育園全園の看護師/八重瀬町法人園長会	保育園における看護師の情報交換・学習会(ZOOMによる研修)	看護学科	金城やす子	2020年7月、12月、2021年2月
4	看護教員/愛知県立総合看護専門学校 愛知県看護研修センター	令和2年度愛知県専任教員養成講習会 講師	看護学科	平賀元美	2020年9月

3-4. 幼・小・中・高生教育

番号	対象/依頼先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	幼児(5歳児)/あま市立保育園	あま市保育園5歳児食育指導計画「幼児の食育に3・1・2弁当箱法を活かす」(保育園児への食育ボランティア)	管理栄養学科	安達内美子	2021年3月
2	実教出版(株)	文部科学省検定教科書執筆・校閲	管理栄養学科	池田彩子	2020年～
3	豊田市立西保見小学校	小学校食育研究 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年5月
4	静岡県立焼津中央高等学校	オペラ「フィガロの結婚」衣装製作の指導	ファッション造形学科	水嶋丸美	2020年10月～2021年5月
5	愛知県北設楽郡東栄町立東栄小学校	学校保健委員会「コロナ禍の今、考える私たちの心と体の健康」 講師	子どもケア学科	鈴木かをる	2020年11月
6	刈谷市立小学校	音楽の授業での響き合いの実践	子どもケア学科	渡辺桜	2016年度～2020年度
7	0～2歳児の未就園児の親子	親子であそぼう会	子どもケアセンター	鋤柄則子 センター保育士	2020年7月1日、22日、10月28日、12月16日、2021年1月27日(全5回)
8	0歳、1歳児の親子	親子のひろば	子どもケアセンター	津金美智子	2020年度後期(2020年9月～11月 6回の連続講座)

3-5. 授業に関連したボランティア

番号	実施先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	日進市竹の山小学校	竹の山小学校ボランティア	管理栄養学部	代表 和泉秀彦	2018年10月～
2	ボランティア実施組織	ボランティア演習	子どもケア学科	石原貴代	2018年度～
3	第2赤十字病院・第1赤十字病院	コロナ対応をされている医療従事者を応援するポスター作り	子どもケア学科	石原貴代	2020年4月～8月
4	献血ルームゲートタワー26	献血者へのポスター作成	子どもケア学科	石原貴代	2020年9月～2021年1月
5	名城大学女子駅伝部	名城大学女子駅伝部への食事支援	管理栄養学科	南亜紀	2017年度～

3-6. SLセンター経由のボランティア

番号	実施先等	内 容	参加人数	日 時
1	日本赤十字社愛知県支部	防災を地域の皆様と一緒に学びませんか？(防災人材育成プログラム第1回)	5	2020年9月19日
2	日本赤十字社愛知県支部	防災を地域の皆様と一緒に学びませんか？(防災人材育成プログラム第2回)	7	2020年11月28日
3	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知 ボランティアセンター	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2021	19	2021年3月13日、14日
4	日進市生涯学習課生涯学習係	日進版こどものまち事業「おいでよ！子どものまち」	4	2021年1月17日～ 2月28日、3月21日
5	日進市社会福祉協議会	グランドソフトボールの練習会補助	2	2021年3月7日

3-7. その他のボランティア

番号	実施先	内 容	所 属	参加者	日 時
1	NPO法人 楠・豊橋精神障害者地域家族会 くすのき会	精神保健医療にかかわる実践者として統合失調症等の精神障害をもつ当事者とその家族のサポート	看護学科	永井邦芳	2015年度～

4. その他の連携等

番号	対象/依頼先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	近隣住民等(20歳以上)	施設開放 中央図書館の利用	図書館	藤井省三	2003年～

IV. 資料

1. 名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程

(趣旨)

第1条 本規程は、名古屋学芸大学学則第 63 条の2第2項の規定に基づき、名古屋学芸大学地域連携推進研究機構(以下「機構」という。)の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、名古屋学芸大学(以下「本学」という。)の、学長のリーダーシップの下、本学における地域連携(産官学連携を含めた連携をいう。以下同じ。)の推進に係る基本方針等を検討し、施策を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 本機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 地域連携推進に係る方針の策定に関すること
- 二 地域連携研究の実施、社会実装の推進及びその支援に関すること
- 三 学生ボランティア活動の支援に関すること
- 四 地域連携、地域貢献活動及び関連する教育・研究成果の広報に関すること
- 五 その他全学的な地域連携推進に関すること

(教職員)

第4条 機構に、次の教職員を置く。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 ボランティアコーディネーター
- 四 その他必要な教職員

2 機構に副機構長を置くことができる。

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。

- 2 機構長は、機構の業務を掌理する。
- 3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(機構長の選考)

第6条 機構長の選考は、「名古屋学芸大学部館科長選考規程」に基づき行う。

(副機構長)

第7条 副機構長を置く場合は、機構長が本学の専任の教職員のうちから選任する。

- 2 副機構長は、機構長を補佐し、機構の業務を行う。
- 3 副機構長の任意は2年とし、再任を妨げない。なお、年度途中で副機構長に選任された場合の任期は、機構長の任期の末日とする。

(運営委員会)

第8条 機構に運営委員会を置く。

(審議事項)

第9条 運営委員会は、第3条の業務に関わる重要事項を審議する。

(組織)

第10条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副学長(教育・研究)
- 三 副機構長
- 四 各研究科から選出された教員
- 五 各学部及び教養教育機構から選出された教員
- 六 健康・栄養研究所長
- 七 子どもケアセンター長
- 八 産官学協同研究センター長
- 九 事務局長
- 十 事務局部長
- 十一 その他学長が必要と認めた者

2 前項第四号から第九号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。なお、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議及び議事)

第11条 運営委員会は、機構長が招集し、その議長となる。ただし、機構長に事故あるときは、機構長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

2 会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(委員以外の者の出席)

第12条 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(部会)

第13条 運営委員会の下に部会を置くことができる。

2 部会の構成及び運営は、機構長が運営委員会に諮って決定する。

(事務)

第14条 機構の事務は、機構においてこれを担当する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、機構の組織及び運営等に関し必要な事項は、運営委員会及び評議会の議を経て学長が定める。

附 則

1 この規程は、2018年10月3日から施行する。

附 則

1 この規程は、2019年9月4日から施行する。

2. 協定・連携一覧

No.	協定先機関	本学	協定等の名称	調印時期	内容/目的
1	日進市	大学	日進市との連携協力に関する協定	H22.2.1	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
2	日本赤十字愛知県支部	大学	日本赤十字愛知県支部と名古屋学芸大学との連携協力に関する協定	H26.11.13	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
3	三重県熊野市	大学	熊野市と名古屋学芸大学との連携協力に関する協定	H27.6.4	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、熊野市の地域課題に対して名古屋学芸大学の学術研究成果を活かした効果的な施策展開を図ること、地域社会の発展に寄与する。
4	愛知県公立高等学校校長会 家庭部会長 (愛知県立成章高校校長)	大学	高大連携に関する協定書	H27.7.1	相互に連携して、双方の保有する資源を活用し多様な事業を行うことにより、家庭に関する学科設置校及び名古屋学芸大学の教育の向上を図り、高校と大学の接続を円滑にする。
5	三重県菰野町	大学	菰野町と名古屋学芸大学との包括的連携に関する協定	H27.7.16	菰野町と名古屋学芸大学が連携して双方の保有する地域資源、知的資源及び人的資源を活用し、多様な分野で事業を行うことで、菰野町の発展と地域振興に資する。
6	名古屋商工会議所	大学	名古屋学芸大学と名古屋商工会議所との連携・協力に関する協定	H27.11.25 ～R2.11.24	名古屋学芸大学の学生のキャリア教育に資するため、名古屋商工会議所の会員企業の販売戦略に役立つデザインについての理解を深めるために産学協同プロジェクトを実施するとともに、地域の経済・文化の発展に寄与する。
7	名城大学総合研究所	管理栄養学部	名城大学総合研究所と名古屋学芸大学管理栄養学部との学術研究交流に関する協定	H28.3.23	相互に所有する教育資源を両組織の研究活動全般に活用することで研究交流を促進するとともに両組織の学術研究及び教育の一層の充実を図る。
8	愛知学長懇話会 (愛知県内の単位互換事業 参加各大学)	大学	愛知学長懇話会による単位互換事業	H14.4.1	愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生が、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度。
9	愛西市長 愛西市農畜産業振興会	大学	愛西市及び愛西市農畜産業振興会と名古屋学芸大学との連携協定に関する協定	H29.1.20	三者がそれぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携協力し、愛西市と愛西市農畜産業振興会が取り組むべき愛西市における地域課題に対して、名古屋学芸大学の学術研究の成果を活かした効果的な施策展開を図ることで、地域社会の発展に寄与することを目的とする。
10	名古屋市中央卸売市場本場 一般社団法人 名古屋市中央卸売市場協会	管理栄養学部	名古屋市中央卸売市場本場、一般社団法人名古屋市中央卸売市場協会及び名古屋学芸大学管理栄養学部との三者間の連携協定	H29.12.8	名古屋市中央卸売市場本場、一般社団法人名古屋市中央卸売市場協会の特色ある物的、人的な資源と本学の食に関する専門的な学術研究の成果を有効に活用し、中央卸売市場で取り扱われる生鮮食料品等及びそれらの食に関する施策展開を図ると共に相互の協働による食育活動を推進し、地域住民の健康及び食生活の向上に資する。
11	社会福祉法人中日新聞社会事業団	大学	名古屋学芸大学と社会福祉法人中日新聞社会事業団との連携協定	H29.12.15	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
12	医療法人尚豊会	管理栄養学部	名古屋学芸大学管理栄養学部と医療法人尚豊会との包括連携協定	H30.4.24	学生の教育(インターンシップ)や予防医学分野等の諸課題に対応した調査研究などをはじめ、それぞれの人的資源等の活用と人的交流を通じて、健康意識の向上と予防医療の啓発活動につなげることで地域社会へ貢献する。
13	医療法人大医会	大学	医療法人大医会と名古屋学芸大学との連携協定	H31.3.6	学生の教育(インターンシップ)や予防医学分野等の諸課題に対応した調査研究、健康診断利用者への栄養指導などをはじめ、それぞれの人的資源等の活用と人的交流を通じて、健康意識の向上と予防医療の啓発活動につなげることで地域社会へ貢献する。
14	東名古屋医師会医療介護総合研究センター	大学	名古屋学芸大学と東名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携に関する協定	R1.10.16	双方の人的資源や機能等の活用を図ることにより、幅広い分野で相互に連携協力し、教育・研究活動の推進及び地域社会における在宅医療・介護事業の発展に寄与する。

3. 2020 年度地域連携推進研究機構運営委員会委員名簿

職 名	氏 名	備 考
機構長	岸 本 満	1 号委員
副学長(教育・研究)	山 本 一 良	2 号委員
栄養科学研究科	塚 原 丘 美	4 号委員
メディア造形研究科	尹 成 濟	〃
子どもケア研究科	福 井 義 浩	〃
管理栄養学部	(塚 原 丘 美)	5 号委員
〃	井 澤 一 郎	〃
メディア造形学部	中 西 正 明	〃
〃	柿 沼 岳 志	〃
〃	錦 見 淳 子	〃
ヒューマンケア学部	(福 井 義 浩)	〃
看護学部	石 田 路 子	〃
教養教育機構	(山 本 一 良)	〃
健康・栄養研究所長	下 方 浩 史	6 号委員
子どもケアセンター長	津 金 美智子	7 号委員
産官学協同研究センター長	梶 田 渉	8 号委員
事務局長	鈴 木 英	9 号委員
事務局部長	松 浦 清 彦	10 号委員
サービスラーニングセンター	石 原 貴 代	11 号委員
地域連携推進研究機構 課長	水 野 美恵子	〃
産官学協同研究センター	皆 川 優 介	(オブザーバー)

4. SL センター報告会用パネル、新聞等の掲載記事、活動記録写真

○復興・創生インターン

2019 年度 春期(パネル 1-1)



1.活動場所

【岩手県】北三陸ブロック：岩手県九戸郡洋野町



おおのミルク村の牧場 自然豊かな洋野町

活動先

株式会社ミナミ食品

「自然の恵みには、人間に必要なものがすべて揃っている。」この考えを基に湯葉や桑の葉などを作る会社である。限界集落に位置することを強みに変え、安心安全はもちろん、美味しくて健康を手助けする食品を提供している。

2.日程

2020 年 2 月 12 日(水)～3 月 14 日(土)

- 1週目：スーパーマーケットトレードショーへの参加・オリエンテーション・観光・案出し・試作
- 2週目：試作・商品のストーリー性の考案・工場での商品作り
- 3週目：試作・試食会・専務に提案
- 4週目：試作・資料作成・成果報告会・終了研修

3.目的

ミナミ食品の世界観を具現化し、25 歳以下の女性をターゲットとした大豆加工品の新商品開発を行う

4.被災・復興状況

青森県境に位置する岩手県九戸郡洋野町は、自然豊かで人の温かみを感じるとても居心地の良い町である。そして、東日本大震災では三陸沿岸で唯一人的被害を免れた町でもある。東北地方太平洋沖地震では、10mを超える津波が襲った。しかし、過去の津波被害の教訓から、避難活動への意識の高い人が多かったことにより、沿岸住民や消防団の避難対応が迅速だったことと、高さ 12mの防潮堤があったことが功を奏した。(河北新報より)

株式会社ミナミ食品の被災状況について

震災後は主に養鶏場での被害が大きく、養鶏の餌が届かなくなったことで多くの鶏が亡くなってしまった。そのことから、餌なども自給するようになった。

また、ミナミ食品は地域の人の仕事を確保することを目的として創業した。その思いから、自社の製品で町おこしをしたいという思いを持っていたため、震災後に桑茶などの新商品開発にも力を入れていた。

復興・創生インターンとは

「復興・創生インターン」は、復興庁事業「伴走型人材確保・育成支援モデル事業」の1つであり、岩手県、宮城県、福島県の被災地企業を対象とした実践型インターンシッププログラムです。

学生の皆さんにとっては、単なる就業体験に留まらず、被災地企業が抱えている課題に対し、経営者と協働して解決に取り組む実践型インターンシッププログラムであり、約1か月間、学生同士、共同生活を送りながら就業体験を経験することにより、キャリア観の醸成や課題解決能力の向上を図ることを目的としています。

※「復興・創生インターン」は、平成 25 年度～27 年度まで行われた「復興支援インターン」に続き、平成 28 年度から行われています。
引用： http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat-1/sub-cat-1-1/fukukousei_intern/20170605094415.html

5. 活動体験の内容

新商品開発を行う上で、以下の 3 点をテーマに掲げた。

- (1) ミナミ食品の自然の恵みを余すことなく使う
- (2) 25 歳以下の女性をターゲット層にする
- (3) オリジナリティ溢れるものにする

ミナミ食品は湯葉や桑茶を生産販売する会社である。

- (1) より、湯葉作りの際に産業廃棄物となるおからや豆乳を活かしたいという強い思いで資源を決めた。
 - (2) より、現在の顧客は 40 歳以上の健康志向の女性が多いため、新たな顧客取得を目指して若い人の関心を惹くものを考えた。
 - (3) より、発案→試作→試食→改善といった PDCA サイクルを繰り返し、約 100 個の試作の中から付加価値を付けてオリジナリティを深めていった。
- このようにして、出来たものが「桑らびもち」である。桑らびもちとは、豆乳とおから入りのわらびもちに桑茶の粉末をまぶしたものである。



桑らびもちの試作

6. 参加理由と学んだことと感想

●参加理由

夏季の復興・創生インターンに参加した友達の高い志に刺激を受け、私も 1 か月間の挑戦を通して見聞を広めたいと思っていました。そして、食品業界に関心があり、自分の知識でどこまで進めることができるのかという思いや、商品開発の中で商品に込められた気持ちや過程を実際に学びたいため、商品開発を希望しました。また、自己課題として意見を発信する力をつけたいと思っていたので参加しました。

●学んだこと

新商品の付加価値を提示することがとても難しいことが分かりました。商品開発はメニューの考案とは大きく異なり、企業理念や使える資源、ターゲットとの一致といったマーケティングの面が鍵を握っています。そのため、求められていることが何かを考え、物事を多面的に捉えた上で自分なりの仮説を立てることが必要だと思いました。

●感想

商品開発は何かを創り上げることが成果だと考えていましたが、完成にたどり着くまでのプロセスを踏むことが非常に重要だと実感しました。そのプロセスには、私の参加目的でもある、意見を発信することも含まれています。このような経験を通して挑戦できたことが自信に繋がりました。

また、たくさんの素敵な出会いに恵まれました。その出会いの中で心に留めていた言葉があります。「好きなことを輝くまで磨く。」これはコーディネーターの方がおっしゃっていた言葉です。好きなことを追求した先に、本当に大切にしていることが見えてくるという意味だと解釈します。このお言葉を下に自分の考えを煮詰めることで、食とインターン活動との交点を見出すことが出来ました。

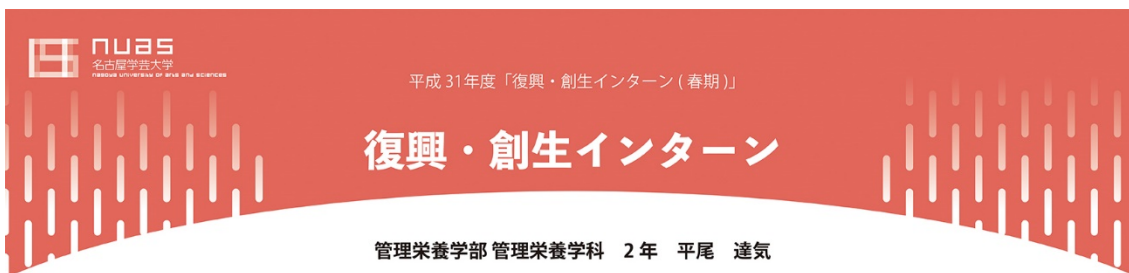
関わってくださった皆様に感謝をしながら、今後も新たな挑戦をしていきたいです。



桑らびもち



成果報告会



1.活動場所

【宮城県】石巻ブロック：宮城県石巻市旭町



「島津うどん」Facebookより

活動先

島津うどん

北上川がもたらした肥沃な大地と、世界3大漁場・金華山沖を擁する宮城県石巻市。島津うどんは明治42年から6代で麺を造り続けている、石巻一帯で唯一の麺専門の製造会社です。「良い素材は、良い製品になる。」という考え方のもと宮城県産にこだわり、生産者の顔が見える原料にこだわり、稲には宮城県の一等米のササニシキを、味噌の大豆は宮城県産のミヤギシロメを使っている。また製品には麺が生きている生乾きを使用しています。島津うどんは、宮城県石巻市に初代島津新之丞氏によって明治42年に創業された。それから6代にわたり100余年石巻で乾きをつくり続けている老舗うどん。創業100余年の伝統を礎に、日本古来の「乾き」を未来へつなぐ事が目標。

2.日程

2020年2月14日(金)～3月13日(金)

1週目：顔合わせ・オリエンテーション・目標の共有

2週目：打ち合わせ・ヒアリング・麺造り体験

3週目：打ち合わせ・ヒアリング・イベント資料作り

4週目：イベント開催・プレゼン・反省会



日和山公園より旧北上川・「石ノ森漫画館」を望む

3.目的

●当初

麺のレシピを地元の料理人と共同開発することによって、麺を中心としたコミュニティを作る

●最終

島津の魅力や地元の料理人に伝え島津を応援してもらう

4.被災・復興状況

石巻市は太平洋に面しているため、東北地方太平洋沖地震後の津波によって甚大な被害を受けた。死者3,552人、行方不明者420人(令和2年4月末現在、石巻市HP)。この2つを合計した数値は、当時の人口比で2%以上になる。更には津波によって多くの個人や企業の建物が倒壊した。このような絶望的な被害にあった石巻市だが、地域住民や行政機関の方そして日本各地から応援に来たボランティアの方々によって今も復興が続いている。町のシンボルマークであった「石ノ森漫画館」は震災の約1年半後に再オープンし、現在では復興のシンボルともいえる存在になっている。しかしながら問題もある。それは沿岸部から中心市街地への人口の流入である。大型ショッピングモールや娯楽施設が数多く存在する中心部に対して、どのように石巻の魅力を発揮できるかが今後の課題であると考えられる。※参考資料：石巻市の復興状況について 石巻市平成25年5月

島津うどんについて

私がインターンに伺った島津うどんも震災によって甚大な被害を受けていた。工場と道具は津波の被害によって使えなくなり伝統の面もなくなってしまった、更には顧客も震災によって転居する方が多く、すべてが0になってしまったような状態であった。しかしそこで立ち上がったのが島津うどん6代目の佐藤光弘さんである。6代目の叔父にあたる5代目は当時そのまま店を畳む予定であったが、麺に可能性を感じていた6代目は統括(6代目の父)と共に再興させることを決めた。そこで私たちインターン生は島津うどんを地域に根付かせるために尽力した。



島津うどんの統括と6代目
「島津うどん」Facebookより

5. 活動体験の内容

6代目の方針からBtoBを強化することを今回の目的とした。

しかし、6代目とインターン生の話し合いの結果、当初予定していた「レシピ開発」という手段では根本的な問題解決にはならないと判明。県庁に勤めているマーケッターの方やコーディネーターの方と相談の末新たな方法を模索し始める。

飲食店の方へヒアリングの結果、島津麴店は地域との関わりがかなり少ないということが分かった。そこで潜在的に島津の麴を求めている飲食店とはどのようなジャンルなのか、そして、そのターゲットに対して島津の製品を使ってもらった効果的な方法はどのようなものなのか。再び飲食店へのヒアリングや地域で開催されるイベントへの参加を繰り返した。

最終的に石巻の中でも健康志向の強いカフェを対象に、島津のこだわりや思いを話す会「生きたお米のお花し会」を開催。これによって、新たな店舗と繋がりができ、実績として新たな取引も生まれた。

「生きたお米のお花し会」の終了後、企業発表内発表を実施。私たちインターン生が成し遂げた成果を、企業に発表そして資料の引継ぎをした。その発表の中で津麴店が今後どのような方針や方法で販路を拡大していくかについても打ち合わせをして、逆に企業側からインターン生に対してフィードバックを頂いた。最後はインターン生同士の成果報告会だ。企業内発表では6代目や従業員の方々とより具体的な話をしたが、成果報告会では、どちらかというと主観的にインターンを振り返り、自分たちの思考プロセスや企業に与えた影響などを発表した。

6. 参加理由と学んだことと感想

●参加理由

私が復興創生インターンに申し込んだ理由は、冬休みをダラダラと過ごしたくなかったという気持ちと、発酵食品を取り扱う企業でインターンの経験をしたかったから、という具体的ではなくぼんやりと何かを得られるのではないかとという気持ちからでした。

●学んだこと

プロジェクトの内容が変わりレシピ開発ではなく、今までは自分が考えたこともなかった「商品をどのように販売していくか」について考えることはとても面白かった半面、答えが見えなくて苦しんだときもあった。そのような中で、石巻で活動をしている方々や全国各地から集まったインターン生の仲間たちから沢山のご助言とお力添えを頂き、なんとか自分たちの考えを形にすることが出来た。

●感想

予定通りにいかない日々には焦りを覚えたことが何度もあった、しかしそのたびにインターンの仲間やコーディネーターの方が相談に乗ってくれた。苦楽を共にしたあの時間を忘れることは決してない。

私はこのインターンの経験から、物を売ることの苦労や考え方を柔軟に持つこと大切さなどを学べたが、何より人との繋がりの尊さ、そしてそこから生まれる産物の可能性というものを感ずることが出来た。



6代目やインターン生と相談しつつ魅力の発信方法を検討する



答えが見えない時もあった



「生きたお米のお花し会」の様子



石巻ブロックで活動した「復興・創生インターン」メンバー



NUAS
名古屋学会大学
NAGOYA UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES

2019年度春期 みなみそうま SL 視察

地域発信の食育

～みなみそうまの農産資源ブランディングプロジェクト～

管理栄養学部 管理栄養学科 2年生

高木涼香・服部麻那

メディア造形学部 デザイン学科 2年生

中島康貴・増田英羽

1. 目標

- 食、育み、創造の三本柱を生かした連携の学修機会を得る
- 地域課題解決を通して、専門領域の学びを生かした人間教育を行う
- ローカルエコノミー、シビックプライドなどコミュニティデザインの概念を実習する
- 南相馬の農産物をブランディングで活性化する
- 地域そのものの魅力を最大化する
- 消費の作法、楽しみの提案、世代間の連携など、野菜で新しい社会価値を創造する
- 地域のありようを考える機会を住民に提供する

2. 活動地域

福島県南相馬市



3. 日程

2020 年 2 月 20 日 (木) ～ 2 月 22 日 (土) 2 日 3 泊

20 日 (木)

- ・集合 南相馬市役所西庁舎
- ・視察の計画概要と次年度の実施計画の打ち合わせ
- 南相馬市役所
 - ・南相馬市企画課
 - ・南相馬市農政課
 - ・南相馬市子ども家庭課
- 原町保健センター
 - ・南相馬市健康づくり課
- ・宿泊 農家民宿 いちばん星

21 日 (金)

- ・視察
- 南相馬市消防・防災センター
- 小高バイオエナヴェレッジ
- 南相馬市市立小高小学校
- 小高交流センター
- プライダル&ホテル ラフィヌ
- 日本料理「花月」
- コロクファーム
- ・宿泊 農家民宿 森のふさと

22 日 (土)

- ・視察
- 農家民宿 (分泊予定)
- セデッテかしま (農産物・パッケージデザイン)
- ・解散 原ノ町駅

4. 被災・視察場所の状況

●風土

南相馬市は、福島県の東部にあたり東は太平洋、西は阿武隈山地に挟まれています。寒暖の差が比較的少なく、夏は東北地方特有の風「やませ」が吹くため涼しく、冬は降雪が少ない穏やかな気候の地域である。

山：八森山、国見山など

沿岸：北泉海岸

河川・湖：新田川、真野川、小高川、宮田川、太田川、水無川、はやま湖など

現状：海岸沿いに田園もしくは田園だったものが広がり、より海の近いあたりは防風・防砂林が植えられている。田んぼの塩害対策、除染が進められている。さらに、区画の整備もなされている。南相馬市の一部地域（主に小高地区）を除き、除染が完了している。

出典：南相馬市ふるさと回帰支援センター
福島県河川流域総合情報システム

●文化・産業など

・文化

文化では相馬野馬追と呼ばれる馬を使ったお祭りがあり、南相馬市を含む旧奥州中村藩の行政区で三日間行われる。そのため馬をとても大切にしている。食文化では大根から作られる「べんけい」や野菜や山菜を使ったものが多いが、これといったものがなく、また、震災後南相馬市を離れた人も多くいたため、文化の継承が不安視されている。

・産業

産業では農業が盛んであるが、除染や除塩が進んでいない地域（主に小高地区）があり農地面積は被災前に比べ減少しており（震災前全体8,400haのうち2,722ha(32.4%)が津波の被害を受けた。）生産者数（戸）も大きく減少している。また、汚染により風評被害を受けている。

震災後に農業の形も変化をしている。野菜などの出荷制限がかかったため野菜ではなく、藍染の藍を作ったり、小高地区では震災前ではアスパラガスが多く作られていたが、今は作られていなかったりしている。広大な農地を利用したソーラーパネルを使った太陽光発電もある。そのほかでは、市内では国から摂取、出荷制限のかかっているものもある。「例：帰宅困難区域の野菜や畜産物、きのこ類などの山菜、新田川の魚、猪肉など」また、被災により失われた産業を回復するため新たな産業基盤を作る福島イノベーション・コースト構想と呼ばれるプロジェクトが進んでいる。災害などで利用されるロボットなどの研究。

出典：島根相双地域 8 市町村能力ガイドブック ふくそうそう、南相馬市の現状と農業の再興に向けた取組、南相馬市
環境回復への挑戦～その軌跡～、南相馬市食育リーフレット

4.被災・視察場所の状況

●南相馬市 震災時の様子

・地震

2011年3月に発生した東日本大震災の本震により、南相馬市内の小高区、鹿島区、原町区高見町で震度6弱、原町区本町、原町区三島町で震度5強の揺れがそれぞれ観測された。その後、震度1度以上を観測した余震は、本震発生後から3月31日までの間に418回、翌4月の1ヶ月間で142回と徐々に減ってはいるがその数からとても多いことが分かる。

・津波

地震の発生を受け、気象庁は地震発生3分後に津波警報を発令した。地震発生15分後には高い津波を観測、さらに10分後に場所によっては巨大な津波になった。また、津波警報および注意報は、地震発生2日後に解除された。南相馬市では9.3mもの大きな津波を観測し、津波による直接死は636名、1,500世帯超の住家が全半壊や浸水、津波被害面積は40km²にもなった。

・原発事故

稼働していた原子力発電所は地震により緊急停止したもの、地震および津波によって施設が損壊、浸水。外部電力が絶たれ炉心冷却不全に陥ったため、炉心溶融が生じた。その後、1号、3号、4号機の建屋が爆発により破損、国際的尺度で「レベル7」とされる大事故になった。「レベル7」は広範囲に及ぶ健康と環境への影響を伴った放射性物質の深刻な放出を指しており、最大レベルである。

・避難状況

地震発生後から12日の朝までに市内46か所で避難所が開設された。その一方で、地震の影響により地盤が著しく沈下し、橋梁と道路に大きな段差が生じたため沿岸部の行政区では避難出来ない状況にあった。また、鉄塔や送電塔の倒壊により電気が使えない状況に陥った。その中、小高区村上行政区では津波により周囲が浸水したため、住民は高台に避難した。しかし、指定避難所へ移動が出来ず、翌日にヘリコプターの救助が開始されるまで孤立状態にあった。各地区の学校や生涯学習センターなどで避難所が開設され、市内最大の避難所となったのは石神中学校でピーク時には1,500人を超える避難者を収容した。また、市は原発事故により、物資が市内に入ることなくなったことを受け、市民の生活が危ぶまると判断し、市民を市域外へバスでの集団避難を実施した。4月に入り市外に避難した市民も、市外県外での長期に渡る避難生活の疲れや、いつまでも避難生活をしてられないという気持ちから、市内に徐々に戻り始めた。また、10月31日には避難者全てが応急仮設住宅等に入居することになり、12月28日には市内の全避難所が閉鎖された。

・人的被害

南相馬市の死者数は1,152名になった。そのうち直接死は636名、関連死は516名、行方不明者は0人である。負傷者は59名であった。これは福島県の中で1番の被害数である。(令和元年9月30日現在)

出典：南相馬市公式ホームページ「南相馬市災害記録誌」
環境省ホームページ「放射線による健康影響等に関する統一した基礎資料(平成28年度版)」

●南相馬市 震災後の様子

・海岸

震災後に次に津波の被害があった時のために被害を抑えるため、道路の高上げが行われていた。
津波によって被害を受けた防風・防砂林の再生のため植林がされていた。

・仮設住宅

震災後に多くの仮設住宅が建てられていたが、現在は仮設住宅の取り壊しが行われていた。

・農地

震災後に農地に海水が流入し冠水している農地が2,722haあったが現在では1,421haが復旧し、営農可能となっている。農作物の生産振興のため、市内産食用米の量販店用商品の商品化を実現している。

・ゴロクファーム

震災後は、塩害により収穫量の減少があった。現在は、「天のつぶ」を中心に様々な品種の栽培がおこなわれている。また、米以外にも柚子やよもぎなど様々な味の餅の販売もされている。

・南相馬市立小高・福浦・金房・鳩原小学校

震災時は4つ別々の小学校であったが3月11日を境に臨時休業し、4月から学校が再開された。平成28年度より4校の合同運営を開始し、同じ校舎で4つの学校の生徒が生活している。

・放射能汚染土

仮置き場には黒い袋(フレコンバッグ)に入った放射能汚染土が積み重なって置かれていた。

・小高交流センター

震災後、多世代が地域内外の交流を広げ、地域の活性と賑わいの創出を図り、地域コミュニティの再構築、本市の復興・再生の実現を目的として整備された。交流スペース、カフェ、地域マルシェ、多世代交流施設などを設けている。地域マルシェでは南相馬市でとれた野菜が売られており、生産者の方から野菜の説明をしていた。写真の多世代交流施設では十分に運動ができるスペースがあった。

出典：「南相馬市の現状と発展に向けた取組」南相馬市 資料より
「今伝えたい、南相馬のお家のはなし」南相馬市経済部農政課 資料より
「南相馬市立小高・福浦・金房・鳩原小学校学校要覧」資料より
「小高交流センターの概要」資料より



防風・防砂林の再生

仮設住宅の取り壊し



小高交流センター（多世代交流施設）

4.被災・視察場所の状況

原子力発電所事故による影響

人的被害

震災直後、福島原子力発電所事故により町は放射線の被害にさらされ、住民は避難せざるを得ない状況になった。震災から9年が経過した現在、汚染された土地については既に除染作業は完了。空間線量についても原発事故の影響を受けていない地域と比較し、ほとんど差はないとの測定結果であった。しかし未だ汚染物質の入った黒い袋は一部町に残されたまま、住民の暮らしの中に存在しているのも事実だ。希望者には、外部被ばく線量を測定するガラスパッチの貸し出しも引き続き行われており、市内の小中学生に対しては、学校単位での健康診断にホールボディカウンターを用いた内部被ばく検診も行われている。

そしてほとんどの地域で立ち入り禁止が解除され住民が戻り始め復興が進む今、風評被害の払拭が課題となっている。震災後の人口の減少についても問題視されているが、これも震災だけでなく、原発事故による放射線の心配や風評被害から来る影響が大きいだろう。そのため南相馬市では、地元へ帰ってきた住民に対し補助金を交付、子育て環境の充実、住民の交流の場を増やすなどの戦略がとられ、住みやすい町に変わりつつある。さらに原発事故の影響から再生可能エネルギーへの転換を推進し、町には風車やソーラーパネルが至る所にあるのも印象的だ。

農作物への被害

そして放射線の被害は農作物にも及んだ。元々農業が盛んに行われていたこの土地では、農作物の摂取・出荷に制限がかけられた。現在も野菜・果物については、帰宅困難区域でなくても山に生えるきのこや山菜、野生鳥獣や養殖でない一部水産物には摂取制限や出荷制限がされているのだ。

米については本格的に作付けが再開されたのは平成27年産米からで、対象

は旧避難指示区域外のみであった。旧避難指示区域での全量生産出荷管理(放射線対策を行い、検査した上で出荷)が行われるようになったのは、作付け再開に向けた試験栽培や実証栽培を得てつい数年前、平成29年産米からのことである。(帰宅困難区域を除く)

こうして市場に出回っているものは全て安全が保証されているが、やはり放射線に対する不安は未だ強く残っている。こうした風評被害の払拭に向けて、県や市では検査を実施、その数値を「ふくしまの恵み」というサイトで確認できるよう掲載している。

「できたよ!南相馬のお米」を合い言葉に食用米“天のつぶ”を特産品として売り出したり、風評被害を考慮し加工品である地酒づくりに取り組んだり、南相馬の農産物を地元、さらには県外にも認知を広め、安全性をアピールする活動が続いている状況だ。

※参考:『南相馬市の現状と農業の再開に向けた取り組み』南相馬市経済部農政課 資料より
『南相馬市の現状と発展に向けた取組』南相馬市 資料より



整備が進む再生可能エネルギー(鹿島区)

5.活動の内容

主な活動は大きく原ノ町地区、小高地区、鹿島地区それぞれの現状と今後について市の職員の方々から説明を受け、地域の方々とふれあうこと。また、現地ではわからない津波の被害や地域の復興を視察すること。

主な動き

〇1日目

7:30 名古屋駅出発

14:00 南相馬市役所・原町保健センター

農家民宿 いちばん星泊

〇2日目

馬飼育場・海岸視察

消防・防災センター

小高ヴァイオニアヴィレッジ

小高小学校

小高交流センター

プライダル・ホテル ラフィーナ

ゴロクファーム

農家民宿 森のふるさと

〇3日目

染物の展示会

セデッ鹿島

13:00頃 原ノ町駅前解散

6. 活動の写真



小高マルシェ入り口 (小高区)



小高マルシェ内 (小高区)



消防・防災センターの様子



津波被害にあった田畑



津波の被害 (フェンスの柱が曲がったまま残されている)



セデッテ農島

7. 参加者の声

管理栄養学科 2年生 高木涼香

私が南相馬市SLに参加したのは、以前から東北の復興の活動に興味があったことと、今年から新しい土地でのSLになるということで自分たちにできることを1から考えられる機会にぜひ参加したいと考えたからです。

今まで1度も東北地方に行ったことがなく、震災の状況についてもニュースで聞くことしかなかったので実際の東北地方がどのような状態であるのかは視察に行くまでは理解できていませんでした。南相馬市の駅の周辺は、多くの建物があり震災があったことを感じないほどでしたが、海の近くに行くと放射線が含まれた土などが黒い袋に詰められてたくさん積んであったり、仮設住宅の取り壊しが行われていたり震災の爪痕は今も残っているということが分かりました。

SLでは南相馬市の市役所の方々、農家民宿の方にご協力いただき、状況、特産物、震災の様子を教えてくださいました。特産物の面では南相馬市はさまざまな野菜を収穫するのに向いている気候であること、「天のつぶ」といったブランドの米を栽培していることが分かりました。福島県は原発の影響で放射線が入っている恐れがあるということで福島産の野菜・果物などを購入人が少なくなっていた時期があったと思います。しかし今は含まれている放射線量はほかの土地(震災の被害のなかった土地)とほぼ変わらないことが検査によって証明されています。南相馬市の特産物を広めるにあたって、放射線の風評被害をなくすために、正しい知識を多くの人に知っていただかないといけないと思いました。そして、特産物を使った料理やお弁当を作ってみたいと思いました。

また、南相馬市の現状を実際に見せていただき、海岸付近の土地の底上げや植林が行われていることを知りました。復興とともに、また災害が起こった際の対

応がされていることが印象的でした。

今回視察に行ってみて、支援活動として活動していくというよりも、南相馬市のみなさんと一緒に楽しめるような企画を考えたいと思いました。南相馬市の豊富な農作物を使って収穫や調理ができると、住民の方々の関心も高まり、多くの方に知っていただくきっかけを作れるのではないかと考えています。また、愛知でも南相馬市の魅力を伝えていけたらいいと思っています。まだ、実際に何をしようかということは決まっていますが、一緒に視察に行った仲間と意見を出し合いながら良い活動になるように頑張っていきたいと思っています。



農家民宿 いちばん星



小高交流センターの視察

7.参加者の声

管理栄養学科 2年生 服部麻那

●参加理由

自分の住む地域では東日本大震災の影響はそれほどなく、これまでも近いうちに大きな地震が来るとは言われていますが、実際に大きな地震を経験したこともありません。震災が起きた当時からボランティアに参加したいとは思ってはいませんが、きっかけがなく今までできてしまいました。9年が経過した今、大きな被害を受けた現地はどんな状況なのか、そして大学生となった自分は何か貢献できるのか、そんな思いで参加を決めました。

●学んだこと・感想

9年というのは長いようで短いと思いました。現地で暮らす人は今、震災によって特別何か不便な生活をしているようには感じませんでしたが、景色だけを見るとまだ少し寂しい感じがしました。それは、東日本大震災が地震だけでなく津波、原発事故が重なっていかにも大きな被害を受けたかを実感することが出来ました。自分が小学生の頃、テレビの中でしか知らなかった仮設住宅が今でも残っていることには驚き、それが取り壊される光景は印象に残っています。一方で復興の力を感じる場面も多く、何より農産物に関してはどれも既に安全も確保され他の地域と変わらない、もしくはそれ以上の素敵なもの。南相馬で食べたものはおいしいものばかりで私たちがお世話になった方々も皆さんとても温かい方で、前を向いて恐れずいろんなことに挑戦する姿が素敵でした。現地の方と触れ合ったからこそわかる魅力や愛知でも伝えたい、微力ながら私も力になりたいと感じました。今回お邪魔したのは冬だったため、農作物が多く実る夏に再び行くことが出来ること、とても楽しみにしています。ロマネスコという自分が知らない野菜もあったので、そういった地元のものを生かして今回お世話になった方々と一緒に盛り上げていけたらと思います。



撤去される仮設住宅

デザイン学科 2年生 中島康貴

●参加理由

1つ目は震災があった頃、まだ小学生だったため何もできなかったが、今困っていることがあるなら手伝いたいと言う気持ちがあったこと。
2つ目は、僕は地理や歴史が好きでこのプロジェクトの助けになれると考えたためこと。
3つ目は僕が地域に根ざしたことにとても興味を持っていてのことです。

●学んだこと

メディアを通して知った現状とは全く違い町には人が多く活気に満ち溢れていました。ただし、震災によって街から人が出ていってしまい人口が減ってしまったことや今も仮設住宅で暮らしている人が多くいることは事実のようで、農業生産者数などもおちてしまっていました。また、原発事故による風評被害によって農産物が売れないこと、震災前後で産業の形が大きく変わってしまったため、中々うまくいっていないこと。地域コミュニティが壊れてしまったこと、それらを打開するために地域の人々が新たな特産物（ロマネスコなど）を作ったり新たな名物料理をつくったり色々と考えて行動していることを学びました。そのほかには同じ福島県内でも考え方や文化が大きく違っていることがわかりました。例えば馬について。南相馬市のある浜通りと呼ばれる地域では馬はともに生きるもの、中通りと呼ばれる地域では馬は見るもの（競馬）、会津地区では食べるものと大きく違うという話がありました。また、震災で現地の人が実際に困ったことを知る事ができました。

●感想

実際に行って見て思ったことは南相馬市の人とはとても地元を愛していると感じました。だからこそ僕はより協力したい、関わりたいとおもいました。また、原町、小高、鹿島とそれぞれの地域の事情がありながらもみんながお互いに頑張っていると感じました。2つ印象に残りました。1つ目は小高地区の『小高ヴァイオニアヴィレッジ』さんです。『小高ヴァイオニアヴィレッジ』さんは、復興が遅れていた小高地区でしっかり行動していました。『そんな小高ヴァイオニアヴィレッジ』さんのような人がいたからこそ小高地区の人が元気になれたと感じました。そして『小高ヴァイオニアヴィレッジ』さんはその先の地域の問題を見据えて行動していると感じました。南相馬市では地元のために行動している人が多くいて、それが南相馬市の活気に繋がっていると感じました。2つ目はコミュニティです。離れていても〇〇さんと言ったらすぐに誰のことかわかりみんなで盛り上がりっていました。1つのキーワードだけでもすぐに会話をしていたためとても驚きました。南相馬市までは愛知からはとても遠く、中々関わる事ができません。しかし、これを機会にもっと南相馬市やその他の地域と関わっていきたいとおもいます。

デザイン学科 2年生 増田美羽

●参加理由

今回このプロジェクトに参加したきっかけは、被災地の状況を実際に自分の目で見たいと思ったのが最初です。いつもメディアで見る福島情報は原発の事故に関するものが多く現地の市民の状況がどのようなか無知で、それを知った上で震災から9年たった今の地域問題の手助けをしてみたいと思いました。

●感想

今回現地に行って強く印象に残っているのは、震災によって引き起こされた農業被害や地域コミュニティの今です。数値だけを見る被害だけでは分からない現地の人の声や、思い、野菜の美味しさなどとても印象深く残っています。震災前にご近所に住んでいた方と離れてしまい話すことが無くなったり、居住人口の減少

によりコミュニティが壊れてしまったと聞きましたが、小高交流センターなどの施設でのコミュニティ作りや、小高ヴァイオニアヴィレッジさんの就きとなる職業作りなど、地域活性化に向けて多方面からアプローチしているのだと改めて知ることが出来ました。また、特に農業にかける思いがすごく伝わってきました。また、小高交流センター内にある小高マルシェで野菜販売している方が優しく声をかけてくれ、野菜の特徴や調理法を教えてください野菜への愛があるのをとても感じました。また、ゴロクファームの荒さんが試行錯誤して作る自家製の商品や森さんのお米作りのこだわりを聞いて、風評被害で農家さんの地元の愛情や農業への想いが潰されてしまうのはとても勿体無いと考えます。具体的には決まっていますが農業に関わる何かをしたいと思い、復興に協力出来ればいいなと思います。

○新聞記事

防災人材育成プログラム

中日新聞 2020年(令和2年)9月20日(日曜日) なごや東版 12

被災者の手記読み追体験

名学芸大など 市民交え防災研修会



大規模災害時に「受け」動ける人材を育成する防災「身」ではなく自ら率先して 研修会が十九日、日進市の

日赤職員(右から2人目)が見守る中、手記から学んだことを話し合う参加者＝日進市の名古屋学芸大で

名古屋学芸大であった。同大地域連携推進研究機構と日赤東支部(名古屋市中区)の共催。

研修会は全三回。初回のこの日は、一九九五年に発生した阪神淡路大震災の被災者の手記を通して災害を追体験し、災害のイメージを明確化する「災害エスノグラフィ」が行われた。

研修会には、同大の学生と教員、市民の十四人が参加。兵庫県西宮市で被災した女性が震災直後から避難生活までの様子や思いを記した手記を読み、「初めて知ったこと」や「重要だと思ったこと」を各自、色マーカーで塗り分けた後、四

グループに分かれて発表。「災害直後は、公助が期待できないと知った」「自衛は一人の力ではどうにもならないので、普段からのつながりが大切」などの意見が上がった。

講師の日赤職員は「防災時は即断即決できる人、避難所生活時はコミュニケーション能力の高い人がリーダーとして必要となる」と話し、リーダーの役割や重要性を説明した。同支部が日進市に配備する救護資機材の展示もあった。

受講した同大三年の林彩那さん(三)は「これまで避難は、受け身の姿勢で考えていたけれど、主体的に動

く大切さを感じました」と話していた。

十一月の二回目は地図を見ながら災害をイメージする「DIG」研修、来年二月の最終回は災害時高齢者支援講習短期講習を行う予定だという。(平木友見子)

中日新聞 2020年9月20日付 朝刊 なごや東版より
(この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています)

中日新聞 2020年(令和2年)10月11日(日曜日) なごや東 20



オンライン開催の「ぼうさいこくたい」に大学の教室から参加する学生たち＝日進市の名古屋学芸大で

若い力で支える福島復興

東日本大震災から九年、日進市の名古屋学芸大では今年、学生有志四人が被災地を視察し、地域の課題解決に取り組んだ。二人が復興庁の「復興・創生インターン（就業体験）」に参加した。これらの活動報告を三日、広島市で開催される防災イベント「ぼうさいこくたい2020」（内閣府など主催）で発表する予定だったが、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催に。休校で学内発表会もできなかった学生たちに、活動について話を聞いた。

今年二月下旬の三日間、第一原発二十キロ圏内全域に避難指示が出されたまの地区は、津波で家が押し流された跡地に太陽光パネルがずらりと並んでいたという。

デザイン学科三年の中島康貴さん（21）は「子どもが安全に遊べる屋内施設建設や給付金支給など、子育て世帯を増やそうとするまちの強い思いを感じた。管理栄養学科三年の服部秋那さん（20）は「一人に優しいまちづくりを目指したり、再建を支援し、安全性を広く浸透させる仕組みをつくる必要がある」と課題を設定して、解決のため再訪を予定していたという。だが新型コロナウイルスの影響でかなわず「すこし残念」と肩を落とした。

また約一カ月間の「インターン」では、管理栄養学科三年の平尾達哉さん（20）が宮城県石巻市のこじんを作る企業に就業。地元飲食店にこじんを販売するセミナーを企画開催。同学科二年の武田菜己里さん（20）は、岩手県洋野町の食品会社で、廃棄されるおからに目を付け、大豆加工品の新商品開発に携わった。

同大では二〇一四年から二年間、栄養管理やデザインを学ぶ学生をボランティアとして派遣。石巻市で無料食堂を開いたり、宮城県南三陸町の団地で住民と交流を深めたりしてきた。

また「インターン」参加者は、現地の企業に約一カ月就業。石巻市の水産加工会社と開発したアナゴを使った「六玉丼」が介護食として商品化されたこともある。

学生と被災地の橋渡し役を務める同大地域連携推進研究機構の石原貴代講師は、「この学びをもとに若い力が何ができるか考えることが大切。新型コロナウイルスでいろいろな機会が失われたが、コロナも災害。日常と異なる生活に対応する力を磨いてほしい」と学生たちに期待していた。



●地元の農家の家でビルハウスを見学する学生たち ●津波で家が押し流された跡地に設置された太陽光パネル いずれも月、福島県南相馬市で（増田さん提供）



●地元の農家の家でビルハウスを見学する学生たち ●津波で家が押し流された跡地に設置された太陽光パネル いずれも月、福島県南相馬市で（増田さん提供）

名学芸大生4人被災地での活動語る

特報

中日新聞 2020年10月11日付 朝刊 なごや東版より
 （この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています）

名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構年報 第2号

2021年3月 発行

発 行 名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構
〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
TEL 0561-75-2270

印 刷 鬼頭印刷株式会社
〒456-0073 愛知県名古屋市熱田区千代田町 3-22
TEL 052-681-1701